

# 法人向け 管理者機能搭載アクセスポイント WAPM-1266WDPR/WAPM-1266WDPRA

# ユーザーマニュアル 第20版

### 本書の対象ファームウェアバージョンについて

本書に記載の内容は、ファームウェアバージョン1.27以降を対象にしています。 最新情報は、当社ホームページを参照してください。

WAPM-1266WDPR:<a href="https://www.buffalo.jp/support/download/list/?item\_code=WAPM-1266WDPR">https://www.buffalo.jp/support/download/list/?item\_code=WAPM-1266WDPR</a>WAPM-1266WDPRA:<a href="https://www.buffalo.jp/support/download/list/?item\_code=WAPM-1266WDPRA">https://www.buffalo.jp/support/download/list/?item\_code=WAPM-1266WDPRA</a>

### 本書で使用している画面について

本書では特に断りのない限り、WAPM-1266WDPRAの画面を使用して説明しています。

https://www.buffalo.jp/

35021408-20 2024.10

### 設定事例集のご案内

本書では、設置や設定画面の解説を主に説明しています。具体的な設定事例については、当社ホームページに 掲載しています。下記の「設定事例集」を参照してください。 https://www.buffalo.jp/s3/guide/wapm-1266wdpr/type02/99/ja/

# 本書について

- 本書の著作権は当社に帰属します。本書の一部または全部を当社に無断で転載、複製、改変などを行うことは禁じられております。
- 本書に記載された仕様、デザイン、その他の内容については、改良のため予告なしに変更される場合があり、現に購入された製品とは一部異なることがあります。
- 本書の内容に関しては万全を期して作成していますが、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどがありましたら、お買い求めになった販売店または当社サポートセンターまでご連絡ください。
- 本製品(付属品等を含む)を輸出または提供する場合は、外国為替及び外国貿易法および米国輸出管理関連 法規等の規制をご確認の上、必要な手続きをおとりください。
- 本製品の使用に際しては、本書に記載した使用方法に沿ってご使用ください。特に、注意事項として記載された取扱方法に違反する使用はお止めください。
- 本書で記載している「記号」は、下記文字をあらわします。
   !"#\$%&'()\*+,-./:;<=>?@[¥]^\_`{|}~ および半角スペース

# 目次

設定事例集のご案内	.1
本書について	.1

第	1	章	本製品の概要と使い方	5
	製	品概要	要	5
		特長.		5
	動	作環境	音	6
	各	部の領	名称とはたらき	7
	本	製品(	こ使用するLANケーブルについて	9
	ア	ンティ	ナの取り付け1	0
		付属の	のアンテナを取り付ける1	.0
		屋外用	月アンテナを取り付ける1	.1
	設	置	1	4
		PoE約	合電機器を接続する1	.4
		壁に耳	図り付ける1	.4
	本	製品の	の初期設定1	5
		エアス	ステーション設定ツールをインストールする1	.5
		本製品	品のIPアドレスを設定する1	.6
		設定画	画面を表示する2	2
		本製品	品からWi-Fiを出力するための設定を行う	26

第2章	本製品の設定画面	
設定画	i面とは	29
設定画	i面にパスワードを設定する	29
Home	画面	

LAN設定	.32
IPアドレス	. 32
LANポート	. 34
VLAN設定	. 35
ネットワーク設定	.37
RADIUS設定	. 37
ユーザー管理	. 40
ブリッジ	. 41
Link Integrity設定	. 43
ProxyARP設定	. 44
Wi-Fi設定	45
Wi-Fi基本	. 45
リピーター機能	. 49
SSID設定	. 51
MACアクセス制限	. 63
WMM	. 65
クライアントモニター	. 67
Wi-Fiスケジューラー	. 68
管理設定	.70
本体/パスワード	. 70
時刻	. 73
ログ情報転送(syslog)	. 75
Admin Tools	.76
++Navi	. 77
設定保存/復元	. 80
再起動	. 82
設定初期化	. 82
ファームウェア更新	. 83
LED設定	. 83

機器診断	
システム情報	
ログ情報	
通信パケット情報	
無線環境モニター	
CPUモニター	
I'm Here	
pingテスト	

第3章	困ったときは	
困った		

付録	
製品仕様	91
ケーブル仕様	
付属品仕様寸法	94
初期設定一覧	96
電波に関する注意	
Wi-Fi(無線LAN)製品ご使用時におけるセキュリラ 注意	ティーに関する 102
免責事項	
商標∙登録商標	

第1章 本製品の概要と使い方

- 本書や本製品付属の取扱説明書に記載されている各種注意事項、使用範囲を守って使用してください。
- 本製品使用中は、表面が温かくなることがあります。熱による故障や変形の原因となるため、本製品は積み 重ねて使用しないでください。

### 製品概要

### 特長

本製品の主な特長は次のとおりです。

### ≪Wi-Fi機能≫

#### 2.4GHz帯/5GHz帯(共通)

• マルチパスの有効活用により、通信経路の多重化が可能

#### 2.4GHz帯

- 直交周波数分割多重(OFDM)により、狭い周波数の範囲を効率的に利用した通信が可能
- スペクトラム拡散(DS-SS)により、耐ノイズ性が高く、傍受されにくい
- 多チャンネル(1~13ch)を実現

#### 5GHz帯

- 直交周波数分割多重(OFDM)により、狭い周波数の範囲を効率的に利用した通信が可能
- 多チャンネルW56(100,104,108,112,116,120,124,128,132,136,140ch)を実現
   ※W56はDFS機能によりチャンネルが自動的に変更されることがあります。
- DFS機能搭載(動的周波数制御:Dynamic Frequency Selection)[W56]
- 気象・航空レーダー波を検知した際でも瞬時にチャンネルを切り替えるDFS障害回避機能に対応[W56]

#### 通信機能

- MIMO(送信2本、受信2本)方式の採用により障害物が多い環境で安定した通信品質を提供
- 電波干渉の少ないチャンネルを選択するオートチャンネル機能
- 4つのキューによる優先制御が可能(IEEE802.1D/1Q、IEEE802.11e/EDCA、COS、IP-TOS/DSCPによる 設定が可能)
- マルチキャスト通信速度の設定が可能(2.4GHz 1~54Mbps、5GHz 6~54Mbps)

#### セキュリティー

- 電波出力を100~50%の範囲で制限可能
- Wi-Fi機器からの接続を、各Wi-Fi機器のMACアドレスを使用して制限が可能(MACアドレスをRADIUS サーバーで管理も可能)
- 最新Wi-Fiセキュリティー規格であるWPA3、およびオープンWi-Fiのセキュリティー保護に関する規格であるWi-Fi Enhanced Openに対応
- WEP・TKIP・AES機能によるセキュリティー強化(マルチSSIDの場合も、「WEP」、「TKIP」、「AES」が使用で きます)
- EAP認証によるセキュリティー強化(IEEE802.1x/EAP準拠)
- クライアント間やSSID間の通信を禁止するプライバシーセパレーター機能

#### ≪ブリッジ機能≫

・ 802.10パケットのフレームブリッジ可能

- アクセスポイント同士をWi-Fiで接続できるリピーター機能(WDS)
- Multiple BSSID機能搭載(2.4GHz 16個、5GHz 16個、合計32個まで)
   ※BSSIDごとに異なるVLAN構成を設定可能
- 有線LAN端子VLANに関して下記の設定が可能
  - Untagged VLAN機能
  - Tagged VLAN機能
  - Multiple VLAN機能

### ≪管理機能≫

• Webベース HTTP/HTTPS、CLI(TELNET、SSH)、WLS-ADTによる管理

### ≪その他機能≫

- LANケーブルを使用した電源供給方式PoE(Power over Ethernet)に対応(IEEE802.3at)
- ログ機能
   ※syslogプロトコルによる転送も可能(IETF RFC3164準拠)
- DHCPサーバーからIPアドレスの自動取得が可能(IPアドレスの手動設定も可能)
- 本製品と同じ有線LAN/Wi-Fiネットワーク上にあるパソコンから、本製品のIPアドレス設定が可能(ただし、管理VLANと同一ネットワーク上に限られます。)
- ファームウェア更新によるバージョンアップ

### ≪ハードウェアの特長≫

- ・ 屋外環境に適した動作保証温度に対応 WAPM-1266WDPR: -25~55℃ WAPM-1266WDPRA: -30~55℃
- 防塵・防水規格IP55に適合
- 耐硫化水素規格JISC 60068-2-43に規定された試験条件下で21日間試験を実施し、正常動作を確認
- ・ 耐塩害規格JIS Z 2371に規定された中性塩水噴霧試験を48時間実施し、外観上で著しい腐食が見られない ことを確認

# 動作環境

本製品の動作環境は次のとおりです。

メモ:最新の対応情報は、当社ホームページ(<u>https://www.buffalo.jp/</u>)を確認してください。

### 対応機器·対応OS

#### <本製品とのWi-Fi接続>

Wi-Fi機能に対応したパソコン、Mac、スマートフォン、タブレットなど

#### <本製品の設定変更>

Microsoft Edgeを搭載したWindows 11/10(<sup>\*\*</sup>)パソコン、 Internet Explorer 11以降を搭載したWindows 8.1(<sup>\*\*</sup>)/7(<sup>\*\*</sup>)パソコン

※64ビットと32ビットに対応しています。

# 各部の名称とはたらき



#### **1** アンテナ

付属のアンテナをアンテナ端子に取り付けて使用します。 重要: 故障の原因となりますので、アンテナ端子には直接手を触れないでください。

### **2** LAN端子

PoEインジェクターやPoE対応のスイッチングハブなどのPoE給電機器を接続します。キャップを取り 外して接続し、使用するときはキャップを取り付けてください。

### **3** RESETボタン

このボタンを約3秒間長押しすると、本製品の設定内容を出荷時設定に戻します。DIAG/POWERランプが赤く点滅した後、赤く点灯します。緑色に点灯したら完了です。

#### **4** DIAG/POWERランプ

点灯/点滅することにより、本製品のステータスを示します。

ランプ表示	ステータス	対処方法
緑色点灯	正常	-
緑色連続点滅(0.5秒間隔)	O℃以下の環境で電源をON にすると本製品のウォーム アップ処理 <sup>*1</sup> が行われます。	_
消灯	PoE給電機器が接続されてい ない状態、または「LED設定」 で「OFF」に設定していると き	_
電源ON後、常時赤色点灯(5 分以上)	RAMエラーまたはファーム ウェアの読み込みにエラー が発生しています。	下記、「DIAG/POWERランプ (赤)の点灯や点滅が止まら ないときは1を参照してくだ
	Wi-Fi(無線LAN)エラーが発 生しています。	さい。
赤色4回点滅	接続したPoE給電機器が対応 していません。	対応したPoE給電機器 <sup>*2</sup> に 接続してください。それでも 改善されない場合は、下記、 「DIAG/POWERランプ(赤) の点灯や点滅が止まらない ときは」を参照してください。
赤色9回点滅	システムにエラーが発生し ています。	下記、「DIAG/POWERランプ (赤)の点灯や点滅が止まら ないときは」を参照してくだ さい。
赤色点滅	ファームウェアをアップ デート中です。	-

※1 ウォームアップ処理時間の目安

WAPM-1266WDPR: 最大約55分間

WAPM-1266WDPRA: 最大約40分間

※2 対応したPoE給電機器は(<u>https://www.buffalo.jp/product/other/poe-taiou.html</u>)を参照してください。

### DIAG/POWERランプ(赤)の点灯や点滅が止まらないときは

次の事項を確認してください。

1)本製品の電源を供給しているケーブルを一度取り外します(電源がOFFになります)。

2)RESETボタンを押しながらもう一度ケーブルを接続(電源がONになります)し、約1分間RESETボタンを押したままにします。

3)電源をONにしたまま、RESETボタンを離して5分待ちます。

4) DIAG/POWERランプが緑色点灯となれば、初期化が完了しています。DIAG/POWERランプ(赤)の点 灯や点滅が止まらない場合は、当社修理センター宛てに本製品をお送りください。

# 本製品に使用するLANケーブルについて

屋外や冷凍庫、温度変化の大きい場所、風雨や砂埃や直射日光などが当たる場所などで使用するときは、当社 製屋外用LANケーブル「BL5ED100」<sup>※</sup>、および後継品または同等品の使用を推奨します。

※LANコネクターは別売りです。(ETPCRJ45ETシリーズなど)

# アンテナの取り付け

## 付属のアンテナを取り付ける

アンテナキャップを取り外し、アンテナを取り付けます。



**メモ:** イラストはWAPM-1266WDPRAの場合の例です。WAPM-1266WDPR用のアンテナは、根元に「2.4G 5G」と記載されています。

1 アンテナキャップを取り外します。

**2** アンテナ(付属品:アンテナ本体に「2.4G/5G」の記載あり)をアンテナ端子に取り付けます。 重要:

- アンテナは、工具などを使用せず、挿し込み口付近を回して取り付けてください。
- 故障の原因となりますので、アンテナ端子には手を触れないでください。

3時計回りに回してアンテナを固定します。

以上で取り付けは完了です。

### 屋外用アンテナを取り付ける

本製品は、別売りの屋外用アンテナに対応しています。屋外用アンテナを使用すると、ビル間の通信ができる ようになります。接続方法は、アンテナによって異なります。

#### 重要:

- 2.4GHzで1対1の通信を行う場合は、指向性アンテナをおすすめします。
- ・ 2.4GHzで本製品1台に対して多数の機器を接続する場合は、無指向性アンテナをおすすめします。
- ・ 5GHzで通信を行う場合は、本製品添付のアンテナをおすすめします。
- 同軸ケーブル(WLE-CCシリーズ)は長いものほどWi-Fiの通信性能が減衰します。設置場所と使用方法に 合わせた長さのものをご利用ください。
- ・ WLE-CCシリーズは長さによっては電波が強くなりすぎ、電波法違反になる場合があります。
- アンテナの種類や、それぞれのアンテナに対応した同軸ケーブルの組み合わせは、「無線LANオプション対応表」(<u>https://www.buffalo.jp/support/other/item-wireless-op.html</u>)を確認してください。

### WLE-HG-DA/AGの場合

1台の本製品に対して1台のアンテナを接続します。以下の手順で接続してください。

- **1** [Wi-Fi設定] [Wi-Fi基本]の画面で、「Wi-Fi」を有効にします。
- 2 アンテナに付属の取扱説明書を参照して、アンテナを設置します。
- 3 アンテナと別売の同軸ケーブル(WLE-CCシリーズ)を接続します。



**4** LAN端子側のアンテナ端子をアンテナの水平偏波入出力端子に接続し、もう一方を垂直偏波入出力端子 に接続します。

メモ: WLE-HG-DA/AG同士で通信する場合、どちらの端子に接続しても性能に違いはありません。 重要: 2本のアンテナ端子を同一のWLE-HG-DA/AGに接続してください。



ANT1 または ANT2

# WLE-HG-DYG、WLE-HG-DA、WLE-HG-NDC、WLE-HG-NDC/A、WLE-HG-SECの場合

1台の本製品に対して2台のアンテナを接続します。以下の手順で接続してください。

重要:

- 電波法違反とならないように、アンテナが対応している周波数帯のWi-Fi機能だけを有効にしてご利用くだ さい。Wi-Fi機能の有効/無効は、設定画面の「詳細設定」-「Wi-Fi設定」-「Wi-Fi基本」の画面で設定してく ださい。
- WLE-HG-DYG、WLE-HG-DA、WLE-HG-NDC、WLE-HG-SECは5GHz帯を有効にした 「WAPM-1266WDPR」、「WAPM-1266WDPRA」と同軸ケーブルで接続して使用しないでください。
- WLE-HG-NDC/Aは2.4GHz帯を有効にした「WAPM-1266WDPR」、「WAPM-1266WDPRA」と同軸ケーブ ルで接続して使用しないでください。
- アンテナは2台とも同一型番のものを使用してください。
  - **1** [Wi-Fi設定] [Wi-Fi基本]の画面で、「Wi-Fi機能」を有効にします。
  - 2 アンテナに付属の取扱説明書を参照して、2台とも同じ向きにアンテナを設置します。

重要:

- アンテナの向きが異なると、通信できなくなる場合があります。
- イラストは、WLE-HG-DYGの場合の例です。





3 アンテナと本製品のアンテナ端子を、別売りの同軸ケーブル(WLE-CCシリーズ)で接続します。



重要: WLE-CCシリーズは長さによっては電波が強くなりすぎ、電波法違反になる場合があります。詳細 は当社ホームページ(<u>https://www.buffalo.jp/support/other/item-wireless-op.html</u>)を参照してく ださい。

以上で取り付けは完了です。

### 設置

### PoE給電機器を接続する

PoE給電機器からのみ、本製品へ電力を供給できます。次の手順でPoE給電機器を接続してください。 **重要:** 

- IEEE 802.3afに対応したPoE給電機器(本製品には非対応)に接続した場合、本製品の電源はONにできますが、Wi-Fi機能は使用できません(DIAG/POWERランプが赤色4回点滅し、Wi-Fi(無線LAN)エラーとなります)。
- データリンクネゴシエーションのみをサポートするPoE給電機器を使用する場合は、PoE給電機器のLLDP を有効に設定してください。
- PoE給電機器によっては、仕様の違いにより、本製品に電力を供給できない場合があります。当社ホームページで対応をご確認のうえ、必ず本製品に対応したPoE給電機器を使用してください。

#### ┃ PoE給電機器のPoE端子と本製品のLAN端子をLANケーブルで接続します。

**メモ:**本製品とPoE給電機器とを接続するLANケーブルは、必ずエンハンスドカテゴリー5以上の4対 UTP/STPケーブルを使用してください。

#### 2 自動的に本製品が起動します。

#### **3** DIAG/POWERランプが点灯(緑)していることを確認します。

メモ:数分経ってもDIAG/POWERランプが点灯(緑)しない場合は、LANケーブルが正しく接続されているか、PoE給電機器の電源がONになっているかどうかを確認してください。

以上で接続は完了です。

### 壁に取り付ける

本製品は、壁に設置して使用してください。取り付け方や設置場所については、本製品に付属の「かんたん導入ガイド」を参照してください。

## 本製品の初期設定

本製品の設定画面を表示し、初期設定を行います。 設定画面を表示するには、「エアステーション設定ツール」を使います。

### エアステーション設定ツールをインストールする

次の手順でエアステーション設定ツールをインストールします。

**メモ:** セキュリティーソフトなどがインストールされている環境の場合、ファイアウォール機能を一時的に 無効にしていただくかアンインストールを行わないと、本製品を検索できない場合があります。詳細について は、セキュリティーソフトメーカーに確認してください。

1 設定用パソコンをインターネットに接続します。

**2** 「<u>https://86886.jp/airset/</u>」にアクセスします。

**3**「ダウンロードソフトウェア使用許諾について」の内容を確認し、同意できる場合は「使用許諾に同意します」をチェックしてダウンロードします。

4 ダウンロードしたファイルを実行します。

**メモ:**「ユーザーアカウント制御」画面が表示された場合は、[はい]または[続行]をクリックしてください。

5 画面の指示に従って、「エアステーション設定ツール」をインストールします。

以上で設定は完了です。

### 本製品のIPアドレスを設定する

「エアステーション設定ツール」を使って本製品のIPアドレスを設定します。

1 エアステーション設定ツールを起動します。

インストール時にデスクトップ上に作られた「エアステーション設定ツール」のショートカットをダブ ルクリックします。

2[次へ]をクリックします。

~	👹 エアステーション設定ツール	×
	はじめに	
	このアプリケーションでは、接続中のネットワーク上でエアステーション無線親機を発見し、設定画面を開くことがで きます。またエアステーション無線親機の IP アドレスを変更できます。	
	開始するによしXへ」をクリックします。 エアステーション設定ツール バージョン X.X.XX	
	次へ(N)	

3本製品を選択して、[次へ]をクリックします。

・ 👹 エアステーション語	殳定ツ−ル			
エアステーション	無線親機の選択			
操作したい無線親機	髪を選択してください。リストにない	場合は、[再検索] をクリック	してください。	
エアステーション名	ネットワーク名 (SSID)	MAC アドレス	IP アドレス	
APXXXXXXXXXXXXX		XX:XX:XX:XX:XX:XX	192, 168, 11, 8	
2)無線親標が見っ				
	辺らない場合			
選択したら [次へ] を	<u>からない場合</u> クリックします。			検索( <u>R</u> )

4 [この無線親機のIPアドレスを設定する]をクリックします。

🍯 エアステーション設	定ツール		
操作の選択			
欠の無線親機が選択	されました。おこないたい操作を	選択してください。	
エアステーション名	ネットワーク名 (SSID)	MAC アドレス	IP アドレス
APXXXXXXXXXXXXXXX		XX:XX:XX:XX:XX:XX	192.168.11.8
	設定画	i面を開く( <u>W)</u> 常はこちら)	

5 「次のIPアドレスを使う」を選択し、ご利用の環境に合わせたIPアドレスを入力して、[次へ]をクリックします。(例:192.168.11.80)

←	ដ エアステーション設定ツール	
	無線親機の IP アドレス設定	
	無線親機の新しい IP アドレスを入力してください。	
	○ DHCP サーバーから IP アドレスを自動的に取得する〈かんたん〉(@)	
	※ 無線親機の ROUTER ランブが点灯している場合 (ルーター機能有効時)は、 この設定にはできません。	
	● 次の IP アドレスを使う(上級者・管理者向け)(S)	
	IP アドレス(I) 192 . 168 . 11 . 80 🕜 設定方法	
	サブネットマスク(U) 255.255.255.0 ~	
	※ 無線親機の ROUTER スイッチが「AUTO」(に設定されていて、 かつ、 ROUTER ランプが消灯している場合 (ルーター機能無効時)は、 この設定にはできません。	
	※ 参考情報 - このパソコンの IP アドレス:	
	11.9 / 255.255.255.0 : Wi-Fi (Qualcomm Atheros AR938x Wireless Network Adapter)	
	[次へ] をクリックすると、設定内容が無線親機に反映されます。	
	次へ(N	)

6 本製品の管理パスワード(出荷時設定では「password」)を入力し、[次へ]をクリックします。

÷	ដ エアステーション設定ツール	×
	設定中	
	この無線親機には、管理パスワードが設定されています。	
	無線親機の管理パスワードを入力してください。	
	管理パスワード(P) password I 入力文字列を表示(V)	
	出荷時の設定は、無し(空欄)または「password」です。	
	次へ(N)	

**メモ:**本製品の管理パスワードが9文字以上の場合、エアステーション設定ツールはご利用いただけません。お手数ですが、ブラウザーのアドレスバーに、本製品のIPアドレスを入力して設定画面を開いてください。

### 7 [完了]をクリックします。

×	C
← 👹 エアステーション設定ツール	
設定完了	
無線親機の IP アドレス設定が完了しました。	
ひきつづき無線親機の設定画面を開くには、 [親機選択画面に戻る] をクリックし、もう一度無線親機を選択してく ださい。	
親機選択画面に戻る	
完了( <u>F</u> )	]

以上で設定は完了です。

### 設定画面を表示する

「エアステーション設定ツール」を使って本製品の設定画面を表示します。

1 エアステーション設定ツール を起動します。

インストール時にデスクトップ上に作られた「エアステーション設定ツール」のショートカットをダブ ルクリックします。

### 2[次へ]をクリックします。

		$\times$
$\leftarrow$	👹 エアステーション設定ツール	
	はじめに	
	このアプリケーションでは、接続中のネットワーク上でエアステーション無線親機を発見し、設定画面を開くことがで きます。またエアステーション無線親機の IP アドレスを変更できます。	
	開始する(こは [)欠へ] をクリックします。	
	エアステーション設定ツール バージョン X.X.XX	
		_
	<u> </u>	

3 本製品を選択して、[次へ]をクリックします。

*	👹 エアステーション設定	ツール			
	エアステーション無約	線親機の選択			
	操作したい無線親機を追	<b>羅択してください。</b> リストにない:	場合は、 [再検索] をクリック(	してください。	
	エアステーション名	ネットワーク名 (SSID)	MAC アドレス	IP アドレス	
	APXXXXXXXXXXXXXX		XX:XX:XX:XX:XX:XX	192.168.11.8	0
	(1)))Ⅲ(2自由日報(4)(日 へも))?	<b>大小根</b> 本			
		A DI L'INNE CONTRACTOR			
	●無禄税徳が兄」から	1 <u>40 000 -</u>			再検索 <mark>(R)</mark>
	● 無縁税後か免しから 選択したら [次へ] をクリッ	<u>ねん いから</u> いクします。			再検索(R)

### 4 [設定画面を開く]をクリックします。



**5** [OK]をクリックします。



**メモ:** 「IPアドレスの設定が必要です」という画面が表示された場合は、[無線親機のIPアドレスを設定する]をクリックして画面の指示に従ってください。

● ログイン画面が表示されたら、ユーザー名に「admin」を入力、パスワードに「password」(出荷時設定の場合)を入力して[ログイン]をクリックします。

ユーザー名	
admin	
パスワード	
••••	୍
ログイン	

#### メモ:

- ・ パスワードを変更したときは、変更後のパスワードを入力してください。
- セキュリティーソフトがインストールされていたり、プロキシ設定がされていたりする場合、この画面が表示されないことがあります。その場合は、セキュリティーソフトやプロキシ設定を一時的に無効にしてください。
- •「無線親機の設定画面を開きました」という画面も一緒に表示された場合は、[完了]をクリックして画 面を閉じてください。
- 7 本製品の設定画面が表示されます。

WAPM-1266WDPRA			Intelligent Wireless LAN Access Point Air Station $P_{rc}$
Home	詳細設定	システム情報	<u>服</u> <u>ログアウト</u>
<ul> <li>機能設定</li> <li>¥i-Fi</li> <li>¥i-FiのSSIDと暗号化を設定する(WEP/TKIP/AES)</li> <li>¥I-Fiのチャンネルを設定する</li> <li>その他</li> <li>エアステーションのファームウェアを更新する</li> <li>エアステーションの設定を初期化する</li> <li>緊急時モード</li> <li>※緊急時モード</li> </ul>		<ul> <li>ファームウェブ</li> <li>WAPM-1266WDF</li> <li>Wi-Fi 情報</li> <li>2.4GHz</li> <li>Wi-Fi モード</li> <li>チャンネル</li> <li>SSID</li> <li>WDS</li> <li>5GHz</li> <li>Wi-Fi モード</li> <li>チャンネル</li> <li>SSID</li> <li>WDS</li> <li>Language</li> <li>Language</li> </ul>	P <b>情報</b> PRA Version X.XX 11b/g/n Ch 使用していません 使用していません 11a/n/ac Ch 使用していません 使用していません

第1章 本製品の概要と使い方

以上で設定画面の表示は完了です。

この後、ご利用の環境に応じてWi-Fiの設定(Wi-Fi機能の有効化や暗号化の設定)を行ってください。

### 本製品からWi-Fiを出力するための設定を行う

本製品は、出荷時設定では、Wi-Fiで通信できない状態になっています。

ここではSSIDや暗号化設定を行い、本製品をWi-Fiで通信できる状態にします。

- メモ:
- SSIDや暗号化方式、事前共有キーは、ご利用の環境にあわせて設定してください。
- 設定した暗号化方式と事前共有キーは、お使いの機器を接続する際に必要となりますので、控えておいてく ださい(ここでは例として、暗号化にWPA2 Personalを使用する場合の手順を説明しています)。

### **1**「Wi-FiのSSIDと暗号化を設定する(WEP/TKIP/AES)」をクリックします。

Wi-Fi
▶▶ <u>Wi-FiのSSIDと暗号化を設定する(WEP/TKIP/AES)</u> ▶▶ <u>Wi-Fiのチャンネルを設定する</u>
その他
▶▶ エアステーションのファームウェアを更新する ▶▶ エアステーションの設定を初期化する
緊急時モード
▶▶ 緊急時モード

### 2以下のように設定します。

- (1) 使用デバイスを選択します。
- (2) SSIDを入力します。
- (3) 認証方式に「WPA2 Personal」を選択します。
- (4) 暗号化方式に「AES」を選択して、事前共有キーを入力します。
- (5) [設定]をクリックします。

	処田シンとい
✤ SSIDと暗号化設定を行う無線規格	を選択してください
使用デバイス	☑ 2.4GHz ☑ 5GHz
ステアリングボリシー	
本エアステーションには複数の無線:	方式が存在します。
◆ SSIDと暗号化方式を選択して下さ	t s
	buffalo
-77	
認証力式	WPA2 Personal
暗号化方式	AES 🗸
事前共有キー	XXXXXXXX
Management Frame Protection	(無効 ✓
追力唱習証	追加認証を行わない
₩i-Fi機器が対応している暗号化方式	*************************************
AESなどの強固な暗号化方式をご利用	いただくことをおすすめします。

### メモ:

- ・「5GHz」はW56(100~140チャンネル)を使用します。
- SSIDは、半角英数字記号で1~32文字で入力します。
- 事前共有キーは、半角英数字記号で8~63文字、16進数入力の場合は64桁で入力します(WPA2/WPA3 Personalの場合、64桁の入力はできません)。
- 「ステアリングポリシー」や「Management Frame Protection」は後から設定できます。詳細は、「SSID 設定」(P.51)を参照してください。

### 3[設定完了]をクリックします。



以上で、本製品からWi-Fiを出力するための設定は完了です。

# 第2章 本製品の設定画面

本章では、本製品の設定画面について説明します。

### 設定画面とは

本製品の設定画面は、各種設定や機器診断を行う画面です。本製品の設定を変更するときや状態を確認したいときに使用します。

重要:設定変更中(DIAG/POWERランプが赤色点灯)は、PoE給電機器との接続を切断しないでください (DIAG/POWERランプの赤色点灯は通常2~3分が続きますが、エラーではありません)。変更中に電源供給が なくなると、正しく動作しなくなるおそれがあります。そのようなときは、RESETボタンを約3秒間長押しし て、本製品を初期化してください。初期化後、「かんたん導入ガイド」に記載の手順でもう一度設定してください。

## 設定画面にパスワードを設定する

設定画面にログインするには、ユーザー名とパスワードを入力する必要があります。 管理ユーザー名で設定画面にログインすると、すべての設定パラメーターと統計情報の読み取りと書き換え の権限が与えられます。参照ユーザー名で設定画面にログインすると、設定を参照する権限が与えられます (設定の変更はできません)。

#### メモ:

- 初期設定の管理者ユーザー名は「admin」、管理パスワードは「password」、参照ユーザー名「user」、参照パス ワード「password」が設定されています。
- 第三者にログインされないよう、本製品の初期設定が完了したら、必ず管理パスワードおよび参照パスワードの設定を行ってください。
- 管理ユーザー名/パスワードは、本製品の設定画面にログインして、設定変更するためのユーザー名/パス ワードです。管理ユーザー名でログインすると、本製品のすべての設定項目を変更できます。
- 参照ユーザー名/パスワードは、本製品の設定画面にログインして、設定内容を確認するためのユーザー名 とパスワードです。参照ユーザー名でログインすると、本製品の設定は変更できません。

1 [詳細設定]をクリックします。

2 左側のメニューから[管理設定] - [本体/パスワード]をクリックします。

**3**「管理パスワード」と「参照パスワード」に新しいパスワードを入力します(確認用にも同じパスワードを入力してください)。

本体/パスワード設定			
管理ユーザー名 admin			
管理バスワード	(確認用)		
参照ユーザー名 user	VUEB6//TJ/		
参照パスワード ●●●●	●●●●● ●●●●●● (確認用)		
設定			
[拡張設定]	[拡張設定]		
エアステーション名	APXXXXXXXXXXXXX		
管理インターフェース	✓ HTTP ✓ HTTPS ✓ TELNET ✓ SSH SNMP		
SNMP Version	SNMPv1/v2c ~		
SNMP Getコミュニティー	public		
SNMP Setコミュニティー	private		
SNMP Trap	□ 送信する		
SNMP Trapコミュニティ	public		
SNMP Trap送信先			
設定			

メモ:

- ・ 管理パスワードは、6~32文字までの半角英数字および記号を入力してください。
- 参照パスワードは、SNMP Versionが「SNMPv1/v2c」に設定されている場合は0~32文字までの半角 英数字および記号を、SNMP Versionが「SNMPv3」に設定されている場合は6~32文字までの半角英 数字および記号を入力してください。
- パスワードを設定する際は、管理パスワードおよび参照パスワードの両方を入力してください。片方 が空欄の場合、パスワードを設定できません。ただし、SNMP Versionに「SNMPv1/v2c」を選択してい る場合は参照パスワードを空欄に設定できます。
- ・管理ユーザー名/パスワードは、本製品の設定画面にログインして、設定変更するためのユーザー名/ パスワードです。管理ユーザー名でログインすると、本製品のすべての設定項目を変更できます。
- 参照ユーザー名/パスワードは、本製品の設定画面にログインして、設定内容を確認するためのユー ザー名とパスワードです。参照ユーザー名でログインすると、本製品の設定は変更できません。

### 4 パスワードを入力したら、[設定]をクリックします。

以上で設定は完了です。

# Home画面

ログインすると最初に表示される画面です。画面の左側にはメニュー、右側にはシステム情報が表示されま す。

WAPM-1266WDPRA		H	Intelligent Wireless LAN Access Point
Home	詳細設定	<u>システム情</u> 報	<u>限</u> <u>ログアウト</u>
機能設定 Wi-Fi Wi-FiのSSIDと暗号化を設定する(WEP/TKIP/AES) Wi-Fiのチャンネルを設定する		■ファームウェフ WAPM-1266WDI ■Wi-Fi情報	ア情報 PRA Version X.XX
<ul> <li>その他</li> <li>エアステーションのファームウェアを更新する エアステーションの設定を初期化する</li> <li>緊急時モード</li> </ul>		2.4GHz Wi-Fiモード チャンネル SSID WDS	11b/g/n Ch 使用していません 使用していません
▶▶ 緊急時モード <b>有効にする</b>		THEO 5GHz Wi-Fiモード チャンネル SSID WDS	11a/n/ac Ch 使用していません 使用していません
		Language	Change Language

項目	内容
詳細設定	本製品の詳しい設定画面を表示します。
システム情報	本製品のシステム情報を表示します。
ログアウト	設定画面からログアウトします。
Wi-FiのSSIDと暗号化を 設定する(WEP/TKIP/ AES)	Wi-FiのSSIDや暗号化の設定を行います。
Wi-Fiのチャンネルを設定 する	Wi-Fiのチャンネル設定を行います。
エアステーションの ファームウェアを更新す る	本製品のファームウェア更新画面を表示します。 ファームウェアは、当社ホームページからダウンロードできます。
エアステーションの設定 を初期化する	本製品の設定を初期化する画面を表示します。
緊急時モード	[有効にする]をクリックすると、本製品が緊急時モードになります。 メモ:本製品では、通常モードと緊急時モードで有効/無効にするSSIDを切り 替えることができます。[詳細設定] - [Wi-Fi設定] - [SSID設定]の画面から 設定を行ってください。

項目	内容
Language	使用したい言語を選択し、[Change Language]をクリックすると、設定画面 の表示言語を切り替えることができます。 「Auto」に設定すると、ブラウザーに設定されている言語の優先順位に従って 表示されます。

# LAN設定

LAN設定は、本製品のHome画面から[詳細設定] – [LAN設定]を選択すると、表示できます。

## IPアドレス

有線LANのIPアドレスの取得方法などの設定を行います。

### LAN設定 > IPアドレス

LAN側IPアドレス設定			
IPアドレス			
IPアドレスの取得方法 手動語	方法 ●手動設定 > >		
IPアドレス 192.16	192.168.11.100		
サブネットマスク 255.25	5255.0 🗸		
デフォルトゲートウェイ 192.16	8.11.1		
DNSサーバー			
プライマリー 192.168.11.1			
セカンダリー			
DHCPサーバー			
DHCPサーバー機能	使用する ~		
割り当て IP アドレス	192.168.11.101	から 30 台	
リース期間	48 時間		
デフォルトゲートウェイの通知	192.168.11.1		
DNSサーバーの通知	プライマリーサーバー:	192.168.11.1	
	セカンダリーサーバー:		
設定			
DHCPリース情報			
Index IPアドレス MACアドレス リース期限 1 192.168.11.101 E8:9D:87:65:65:20 47:59:35			

項目	内容
IPアドレスの取得方法	IPアドレスの取得方法(DHCPから取得/手動設定)を設定します。

項目	内容
IPアドレス	「IPアドレスの取得方法」が「手動設定」の場合、IPアドレスを設定します。
サブネットマスク	「IPアドレスの取得方法」が「手動設定」の場合、サブネットマスクを設定します。
デフォルトゲートウェイ	「IPアドレスの取得方法」が「手動設定」の場合、デフォルトゲートウェイを 設定します。
プライマリー	プライマリーDNSサーバーを設定します。
セカンダリー	セカンダリーDNSサーバーを設定します。
DHCPサーバー機能	「IPアドレスの取得方法」が「手動設定」の場合、本製品のDHCPサーバー機能 を使用するかどうかを設定します。 「使用する」に設定した場合は、管理VLANの機器に対してIPアドレスを割り 当てます。
割り当てIPアドレス	管理VLANの機器に割り当てるIPアドレス(最大256台まで)の範囲を設定します。
リース期間	DHCPサーバー機能で割り当てたIPアドレスの有効期間を1~720時間で 設定します。
デフォルトゲートウェイ の通知	DHCPサーバー機能で通知するデフォルトゲートウェイのIPアドレスを設定 します。
DNSサーバーの通知	DHCPサーバー機能で通知するDNSサーバーのIPアドレスを設定します。
DHCPリース情報	DHCPサーバー機能でリースした情報が表示されます。

### LANポート

有線LAN端子の通信速度などの設定を行います。

### LAN設定 > LANポート



項目	内容	
有線LANポート	有線LAN端子の端子番号を示します。	
有効	有線LAN端子の状態を、有効または無効に設定します。	
通信速度	<ul> <li>有線(イーサネット)の通信速度を設定します。</li> <li>Auto、10Mbps 半二重、10Mbps 全二重、100Mbps 半二重、100Mbps 全二重、</li> <li>1000Mbps 全二重から選択します。</li> <li>通常は、「Auto」の設定でお使いください。「Auto」に設定しておくと、接続先の</li> <li>機器を自動的に判別し、最適な通信速度が選択されます。</li> <li>接続先の機器を自動的に判別できないときは、ほかの設定をお試しください。</li> </ul>	
MDI	接続先との機器の接続状況(ストレート/クロス結線)を設定します。 本製品では、「Auto」(接続先の機器を自動的に判別し、最適な通信方式を 選択)または「MDI」(ストレート結線に固定)に設定できます。	
フロー制御	フロー制御を設定します。 フロー制御を有効にすると、受信側バッファーのオーバーフローを検出し、 特定のフレームを送信することによって送信側の動作(送信)を抑制できま す。	
	メモ:フロー制御は、受信側バッファーのオーバーフローを抑制する場合に 有効ですが、フレームの定時性を重視するようなアプリケーションを利用す る場合は妨げとなる場合があります。	
802.3az	IEEE802.3az EEEを設定します。 802.3azを有効にすると、データが流れていないときのLAN端子への電力供 給を制限することによって、節電できます。	
	メモ: 接続相手機器もIEEE802.3az EEEに対応している必要があります。	

### VLAN設定

有線LANおよびWi-FiのVLAN設定を行います。

### LAN設定 > VLAN設定

VLANモード・	ID設定		
インターフェース	VLAN		
インターフェース	VLANモード	VLAN ID 追加VLAN ID	
有線ポート(#1)	Hybrid $\checkmark$	] [1	
SSID #1 [Buffalo] 2.4GHz, 5GHz	Untagged Port $\vee$	1	
	_		
管理VLAN ID 1			
設定			

項目	内容
	有線LAN端子(#1)および各SSID(Wi-Fi機能有効時)のVLANモードを設定し ます。 次のVLANモードを選択できます。
	Untagged Port タグの付加されていないフレームのみ受信します。受信したフレームは指定 したVLAN IDを付加してほかのLAN端子へ転送します。 送信時には指定したVLAN IDを持つフレームのみを転送します(このとき、 タグは付加されません)。
VLANモード	<b>Tagged Port</b> タグ付きのフレーム(IEEE802.1Q準拠)を送受信できます。 Tag VLAN対応のスイッチなどと組み合わせることで、異なるIDが混在した VLANネットワークの中継を行うことができます。
	Multiple Untaggedを選択したときの動作に加え、追加VLAN IDに指定したIDを持つ フレームも転送します(このとき、タグは付加されません)。
	Hybrid TaggedとUntaggedの両方のフレームを受信できる設定です。 本製品の管理VLANへUntaggedでアクセスできるように、スイッチと本製品 間のVLAN IDを設定しておくと、本製品の設定を初期化しても設定画面を表 示できます。
VLAN ID	インターフェースVLANに固有のVLAN IDを設定します。 VLAN IDは、1~4094までの整数値を設定できます。 インターフェースVLANでは、VLANモードで「Tagged Port」以外を選択した LAN端子のみに設定できます。
追加VLAN ID	LAN端子のVLANモードを「Multiple」に設定した場合、設定したVLAN IDに 加え、VLAN IDを3つまで追加できます。 VLAN IDは、1~4094までの整数値を設定できます。
項目	内容
-----------	---
	管理VLANのVLAN IDを設定します。 VLAN IDは、1~4094までの整数値を設定できます。
管理VLAN ID	<ul> <li>メモ:本製品では管理VLANに有線LANからアクセスできるように、管理</li> <li>VLAN IDに設定できる値を制限しています。下記のどちらかの条件を満たす</li> <li>必要があります。</li> <li>・有線ポートに「Tagged Port」以外を選択している場合は、「VLAN ID」が管理VLAN IDと同じであること。</li> </ul>
	<ul> <li>有線ポートが「Tagged Port」であること。</li> </ul>

# ネットワーク設定

ネットワーク設定は、本製品のHome画面から[詳細設定]-[ネットワーク設定]を選択すると、表示できます。

### RADIUS設定

Wi-Fi機器の認証などに用いられるRADIUSサーバーの設定を行います。 本製品では、2台(プライマリー、セカンダリー)のRADIUSサーバーを登録できます。プライマリー、セカンダ

リーの2つのサーバーを登録しておくと、プライマリーサーバーに通信障害が発生した場合でも、自動的にセ カンダリーサーバーへ問い合わせ先を切り替え、認証を継続させることができます。

メモ: RADIUSサーバーは管理VLANからアクセスできる必要があります。

#### ネットワーク設定 > RADIUS > RADIUS設定

項目	内容
サーバー	本製品内蔵のRADIUSサーバーを使用するか、外部のRADIUSサーバーを 使用するかを選択します。
	メモ:以下の設定項目は「外部」を選択した場合のみ表示されます。
サーバー名	認証時の問い合わせを行うRADIUSサーバーを、DNS解決可能なサーバー名、 またはIPアドレスで設定します。
認証ポート	RADIUS認証プロトコルに使用されるRADIUSサーバー側のUDPポート番号 を設定します。
	<b>メモ:</b> 一般的なRADIUSシステムの場合は1812番ポートを使用します。
Accounting	外部RADIUSサーバー使用時に、RADIUSサーバー上で認証済クライアント の通信パケット情報などを集計する、RADIUS Accountingプロトコルを使用 するかどうかを設定します。RADIUS Accountingプロトコルに対応していな いRADIUSサーバーをお使いの場合は、チェックマークを外してください。
Accountingポート	外部RADIUSサーバー使用時にRADIUS Accountingプロトコルに使用され るサーバー側のUDPポート番号を設定します。
	<b>メモ:</b> 一般的なRADIUSシステムの場合は1813番ポートが使用されます。
Shared Secret	RADIUSサーバーと本製品の間の通信に使うShared Secretを設定します。 RADIUSサーバーは同じShared Secretを持つ本製品からの認証のみ受け付 けます。(入力可能文字:1~255文字までの半角英数字記号)
Session-Timeout	<ul> <li>RADIUSサーバーが許可するWi-Fi機器の通信可能時間を設定します。(入力可能範囲:0、60~86400(秒))</li> <li>0を設定した場合は、通信可能時間は無期限になります。</li> <li>メモ:参照先のRADIUSサーバーにもSession-Timeout属性が設定されている場合、本製品はどちらか短く設定された値を優先して利用します。</li> </ul>
	RADIUSサーバーに送信するCalling-Station-Idの書式を選択します。 <b>""(区切りなし,小文字)</b> 接続したWi-Fi機器のMACアドレスがハイフン区切りなしの小文字(例:
Calling-Station-Id	1234567890ab)で送信されます。 <b>"-"(ハイフン区切り,大文字)</b> 接続したWi-Fi機器のMACアドレスがハイフン区切りありの大文字(例: 12-34-56-78-90-AB)で送信されます。
Called-Station-Id	<ul> <li>RADIUSサーバーに送信するCalled-Station-Idの書式を選択します。</li> <li><b>""(区切りなし、小文字)</b></li> <li>接続したWi-Fi機器のフレームを受信した本製品のMACアドレスがハイフン区切りなしの小文字(例:1234567890ab)で送信されます。</li> <li><b>"-"(ハイフン区切り、大文字):"SSID"</b></li> </ul>
	接続したWi-Fi機器のフレームを受信した本製品のMACアドレスがハイフ ン区切りありの大文字、接続したWi-Fi機器が接続先に利用するSSID(例: 12-34-56-78-90-AB:Buffalo)で送信されます。
PMKキャッシュ機能	PMKキャッシュを使用するかどうかを設定します。PMKキャッシュを使用 した場合、RADIUSサーバーから認証を受けたほかのアクセスポイントの 設定を共有するため、アクセスポイント間におけるローミングにかかる時間 を短縮できます。

項目	内容
共有キー	近隣のアクセスポイントと情報を共有するための共有キーを設定します。共 有キーが同じアクセスポイントのみに情報が共有されるようになります。 (入力可能文字:6~32文字までの半角英数字記号)
内蔵RADIUSサーバー	本製品の内蔵RADIUSサーバーを使用するかどうかを設定します。
EAP内部認証	EAP内部認証方式を設定します。EAP証明書をアップロードした場合のみ、 TLSを選択できます。
EAP証明書ファイル形式	本製品での内蔵RADIUSサーバー機能では、PKCS#12形式(拡張子が*.pfxま たは*.p12のもの)のEAP証明書ファイルをインポートできます。
EAP証明書ファイル	[参照]をクリックすると、ファイル参照の画面が表示されますので、証明書 ファイルを選択します。証明書ファイルをインポートしない場合は、内蔵 RADIUSサーバーは自己発行のサーバー証明書を使用して認証を行います。 メモ:証明書ファイルには、「サーバー証明書(秘密鍵を含む)」、「CA証明書お よびRoot証明書までのChainを構成するすべての中間証明書」が含まれてい る必要があります。
EAP証明書ファイル・パス ワード	インポートする証明書ファイルのパスワードを入力します。(入力可能文字: 0~64文字までの半角英数字記号)
Shared Secret	内蔵RADIUSサーバーとRADIUSクライアントの間の通信に用いられるパ スワードを設定します。内蔵RADIUSサーバーは、同じShared Secretを持つ RADIUSクライアントからの認証のみ受け付けます。(入力可能文字:1~255 文字までの半角英数字記号)
Session-Timeout	内蔵RADIUSサーバーが許可するWi-Fi機器の通信可能時間を設定します。0 を設定した場合は、通信可能時間は無期限になります。(入力可能範囲:0、60 ~86400(秒))
Termination-Action	<ul> <li>Session Timeoutで設定された通信可能時間が経過したときの動作を指定します。</li> <li><b>再認証を行う(RADIUS-Request)</b></li> <li>Termination Action属性(RADIUS-Request)をアクセスポイントなどに送信します。Session Timeoutに設定された時間経過後、クライアントは再認証されます。</li> <li><b>再認証を行わない(Default)</b></li> <li>Termination Action属性(Default)をアクセスポイントなどに送信します。</li> <li>Session-Timeoutに設定された時間経過後、クライアントは再認証されません。</li> <li><b>送信しない</b></li> <li>Termination Action属性をアクセスポイントなどに送信しません。Session Timeoutに設定された時間経過後、クライアントは再認証されません。</li> </ul>

### ユーザー管理

内蔵RADIUSサーバー認証に使用するユーザー名を編集・登録します。このリストは、[Wi-Fi設定]-[RADIUS]-[RADIUS設定]において、内蔵RADIUSサーバーを使用するよう設定されている場合に使用され ます。

メモ:

- EAP認証を使用する場合は、サブタイプ設定に関わらずユーザーを登録する必要があります。
- 登録できる最大ユーザー数は、256です。

#### ネットワーク設定 > RADIUS > ユーザー管理 > [登録ユーザーリスト の編集]

ユーザー管理設定 - 登録ユーザーリストの編集
編集を終了して前の画面へ戻る
登録ユーザーリストの新規追加
ユーザー名
新規追加
登録ユーザーリスト ユーザー名 操作 ユーザーが登録されていません
全てのユーザーを削除

項目	内容
登録ユーザーリストの新 規追加	登録するユーザー名(半角英数字とハイフン「-」で4~16文字、ハイフン「-」 は先頭末尾には使用不可)を入力します。[新規追加]をクリックすると、登録 ユーザーリストにユーザー名が登録されます。ユーザーにパスワードを設定 する場合は、登録ユーザーリストの[修正]をクリックして設定します。
登録ユーザーリスト	登録されているユーザー名を一覧で表示します。一覧は、ユーザー名の辞書 順で表示されます。
[修正]	クリックすると、登録ユーザーリストの修正画面へ進みます。
登録ユーザーリストの修 正	[修正]をクリックしたときに表示されます。 ユーザー名 ユーザー名(半角英数字で4~16文字)を入力します。 パスワード 登録されたユーザーのパスワード(半角英数字と記号で6~32文字)を入力し ます。

項目	内容
[削除]	該当するユーザーを削除します。
[全てのユーザーを削除]	登録ユーザーリスト内のすべてのユーザーを削除します。

# ブリッジ

ブリッジの動作を制御するためのパラメーターを設定します。

### ネットワーク設定 > ブリッジ

ブリッジ設定				
Donid STD	0 on 0 orr			
Napiu oir				
Aging lime	300 (10-3	3600秒)		
BPDU Forwarding	有効 ~			
Bridge Priority	32768 (0-61	440)		
Forward Delay	15 (4-30秒)			
Max Age	20 (6-40秒)			
Transmit Hold Coun	t 6 (1-10)			
Auto Edge	無効 ~			
設定				
ポートブリッジ情報	<b>愛の編集</b>			
ポート	Port Priority	Path Cost	Edgeポート	Point to Point
有線ポート(#1)	128	20000		自動 ~
SSID #1 [Buffalo] 2.4GHz, 5GHz	128	200000		自動 ~
設定				

項目	内容
Rapid STP	ラピッドスパニングツリーを有効にするかどうかを設定します。
Aging Time	ブリッジがフレーム転送で学習したほかの通信機器のMACアドレスを保持 しておく時間を設定します。 頻繁にネットワーク構成が変更される場合は、設定値を小さくすることでア ドレスの再学習にかかる時間を短縮できます。(入力可能範囲:10~3600秒)
BPDU Forwarding	スパニングツリーが無効のときに、BPDUを透過するか、しないかを設定します。
Bridge Priority	スパニングツリー上で、ブリッジを識別するためのPriorityを設定します。 通常はMACアドレスと併用したものをPriorityとして用いるため、重複した IDがネットワーク内に存在していても構いません。 ネットワーク上の全ブリッジのうち、BridgePriorityの最も小さい機器が、ス パニングツリー上の「ルートブリッジ」として動作します。(入力可能範囲:0 ~61440)

項目	内容
Forward Delay	ブリッジ再構成を行うときにかかる時間を設定します。 短くするほど構成変更時の復旧が早くなりますが、ネットワークの規模が大 きい場合、設定した時間までに末端のブリッジ処理が完了しない可能性があ ります。(入力可能範囲:4~30秒) メモ:この設定は、本製品がルートブリッジのときのみ有効です。ルートブ リッジではない場合、この設定値は無視されます。
Max Age	Max Ageで設定した時間内にルートブリッジからのBPDUを受信できなかっ た場合、本製品は構成が変更されたと判断し、ブリッジの再構成を開始しま す。(入力可能範囲:6~40秒) メモ:この設定は、本製品がルートブリッジのときのみ有効です。ルートブ リッジではない場合、この設定値は無視されます。
Transmit Hold Count	1秒間に送信されるBPDUの最大数を設定します。(入力可能範囲:1~10)
Auto Edge	ポートが3秒間、BPDUを受信しなかった場合に、ポートをEdgeポートとして 扱います。
ポートブリッジ情報の編 集	本製品が持つポートごとの情報を設定します。 これらの情報はスパニングツリープロトコルがブリッジ情報の再構成を行 う際、最適な経路を計算するために使われます。 Port Priority ポートごとに優先番号を設定します。ルートブリッジからのPath Costが同 じポートに対しては、Port Priorityのより低い経路が優先されます。(入力可 能範囲:0~255) Path Cost ポートごとに通信フレームを転送するためにかかるコストを設定します。 一般的には有線やWi-Fiのデバイス規格(100BaseTX,802.11b)など、通信速 度によってコストを調整し、より多く帯域を確保できる経路が選択されるよ うにします。スパニングツリープロトコルでは、ルートブリッジからコスト の総計がもっとも低い経路が実際の通信に使われます。(入力可能範囲:1~ 20000000) Edgeポート Edgeポート Edgeポートはブリッジ製品が存在しないパソコンなどの機器をポートに接 続するときなどに有効です。機器を接続後、すぐに通信可能になります。 Point to Point 使用するポートが、ほかのブリッジと1対1で接続されているか設定します。

## Link Integrity設定

Link Integrity(経路監視)機能の設定を行います。

Link Integrityは、複数のアクセスポイントを同じSSID(ローミング構成)で運用しているときに、ネットワーク障害を回避するための機能です。

**メモ:** この設定で、サーバーなどネットワーク上のホストのアドレスを指定しておくと、本製品は定期的に指定したホストへ接続確認を行います。接続確認ができなくなるとネットワークが切断されたと判断し、インターフェースごとに設定した動作を行います。

### ネットワーク設定 > Link Integrity設定

Link Integrity設定		
Link Internity [		
LINK Integrity L 玻璃水中中マリ	」使用する	
確認元小人ト		
確認間隔 60	0秒	
再確認回数 5		
<ul> <li>設定</li> <li>切断時の動作設定</li> </ul>	2	
インターフェース	Action	
有線ボート(#1)	何もしない	$\sim$
SSID #1 [Buffalo] 2.4GHz, 5GHz	] 切断時SSIDを無効にする	$\sim$
設定		

項目	内容
Link Integrity	「使用する」に設定すると、Link Integrityの機能が有効になります。
確認先ホスト	Link Integrity機能が接続確認を行うためのホストを、IPアドレスまたは、 DNS解決可能なホスト名で設定します。
確認間隔	接続確認を行う間隔を設定します。(入力可能範囲:2~999(秒))
再確認回数	接続確認に何回失敗したら、Wi-Fi機器の接続を切断するかを設定します。 (入力可能範囲:1~99(回))

項目	内容
切断時の動作設定	Link Integrity機能によりネットワーク切断が検出された場合、インターフェースごとの動作内容を指定します。ただし、すでに無効に設定されているインターフェースや機能に対しては、どのような操作も行いません。
	<b>何もしない</b> 本インターフェースに対して、どのような操作も行いません。
	<b>切断時ポートを無効にする</b> 切断時にリンクを無効にします。
	<b>切断時のみポートを有効にする</b> 切断時のみリンクを有効にします。
	<b>切断時SSIDを無効にする</b> 切断時にSSIDを無効にします。
	<b>切断時のみSSIDを有効にする</b> 切断時のみSSIDを有効にします。

※WDS経由の通信は切断対象のネットワークに含まれません。

## ProxyARP設定

Wi-Fiアダプターのパフォーマンスと省電力性を向上させるProxyARP機能を設定します。

### ネットワーク設定 > ProxyARP設定

ProxyArp設定
ProxyArp機能 🗌 使用する
設定

項目	内容
	「使用する」に設定すると、ProxyARP機能が有効になります。ProxyARP機能 はすべてのVLANに対して有効に働きます。
ProxyARP機能	<ul> <li>重要:下記の機器については、本製品のProxyARP機能が有効に動作せず、通信できなくなることがあります。</li> <li>・IPv4アドレスを固定設定した一部機器</li> <li>・接続時に自身のIPv4アドレスとMACアドレスの組み合わせを告知する ARPパケットを送信しない状態の機器</li> <li>・接続時にIPv6アドレスにおけるARPの役割を担うNeighbor Discovery 機能が働かない状態の機器</li> <li>(例:一部のWi-Fi機能内蔵プリンターや、イーサネットコンバーターの有線 端子の先に接続した機器など)</li> </ul>

# Wi-Fi設定

Wi-Fi設定は、本製品のHome画面から[詳細設定]-[Wi-Fi設定]を選択すると、表示できます。

### Wi-Fi基本

Wi-Fiの基本情報を手動設定します。

メモ:

- 設定できるWi-Fiには、2.4GHz、5GHzの2種類があり、それぞれ設定できます。
- 本製品ではW56(100~140チャンネル)を使用するWi-Fiを「5GHz」と定義しています。
- ここでは「5GHz」の画面を例に、各設定項目をまとめて説明しています。

#### Wi-Fi設定 > Wi-Fi基本

画面は、5GHzを選択した場合の例です。

₩i-Fi基本設定 (5GHz)	
₩i-Fi機能	<ul> <li>使用する</li> </ul>
₩i-Fiモード	11a/n/ac 🗸
	Auto(W56) く (現在のチャンネル: 128)
Wi-Fiチャンネル	
	□ 于破通信中でもチャンネルを変更する ※DFSありの場合、気象レーダー等を感知すると自動的にチャンネルが変更されます
	強い干渉を受けた時のみ回避する  ✔
干渉波自動回避	※干渉波自動回避を有効にした場合、 動作時にステーションが切断されることがあります
DFS障害回避	有効 🗸
Guard Interval	Short GI 🗸
Aggregation	AMPDU/AMSDU 🗸
フレームバースト	使用しない ・
802.11nプロテクション	使用する
DTIM Period	1
RTS Threshold	2347
Multicast Rate	Auto 🗸
端末キーブアライブ間隔	60
802.11h送信バラメーター	<ul> <li>送信する</li> </ul>
送信出力	100 % + -
Beacon送信間隔	100 Kus
ビームフォーミング	□使用する
設定	

項目	内容
Wi-Fi機能	Wi-Fi機能を使用するかどうかを設定します。 [使用する]のチェックを外すと、ビーコンなどを含むすべてのWi-Fi通信を 停止します。
Wi-Fiモード	Wi-Fiモードを設定します。 5GHz:11a/n/ac、11a/n、11a 2.4GHz:11b/g/n、11g/n、11g、11b/g、11b から選択します。 Wi-Fiの規格によって選択できる項目が異なります。
<b>Wi-Fiチャンネル</b> (2.4GHz)	2.4GHzのWi-Fiで使用するチャンネル(周波数帯)を選択します。 Autoを選択すると、自動的に最適なチャンネルが設定されます。 近い周波数を使用するWi-Fi機器が周囲にある場合、通信に影響を与える 場合があります。通信速度が遅い場合は、チャンネルを変更してみてください。 手動でチャンネルを設定する場合は、電波干渉の低減や周波数利用効率向上 のため、チャンネルを1、6、11のいずれかの設定をおすすめします。 2つのチャンネルを指定する場合は、「20/40MHz」または「40MHz」に設定し ます。
<b>Wi-Fiチャンネル</b> (5GHz)	<ul> <li>W56で使用するチャンネル(周波数帯)を選択します。</li> <li>Autoを選択すると、自動的に最適なチャンネルが設定されます。</li> <li>近い周波数を使用するWi-Fi機器が周囲にある場合、通信に影響を与える場合があります。通信速度が遅い場合は、チャンネルを変更してみてください。</li> <li>4つのチャンネルを指定する場合は「80MHz」に、2つのチャンネルを指定する場合は「40MHz」に設定します。</li> <li>メモ: 5GHzで使用するチャンネルは、気象・航空レーダーなどとの混信を避けるため、自動的にDFS(Dynamic Frequency Selection)機能が有効になります。DFS機能が有効になると、本製品は混信の検出時、レーダーとの干渉を避けるため、1分ほどWi-Fi通信を一時的に停止します(「DFS障害回避」を有効に設定している場合は、監視中のチャンネルが同時にレーダーを検知するといった特殊な事例を除き、Wi-Fi通信を停止することなくご利用いただけます)。</li> </ul>
干渉波自動回避	<ul> <li>Wi-FiチャンネルがAutoに設定されている場合に、ほかのWi-Fi機器や電子レンジなどのWi-Fi以外の機器から発生するノイズを検知して、Wi-Fiチャンネルを変更するかどうかを設定します。</li> <li>無効</li> <li>干渉波自動回避機能を無効にします。無効に設定した場合、ノイズが検出されても、Wi-Fiチャンネルの変更は行いません。</li> <li>強い干渉を受けた時のみ回避する</li> <li>通信ができないほどの強いノイズを検出した場合に限り、Wi-Fiチャンネルを変更します。</li> <li>常に回避する</li> <li>ノイズを検出すると、Wi-Fiチャンネルを変更します。</li> </ul>

項目	内容
<b>DFS障害回避</b> ※5GHzのみ	本製品が気象・航空レーダーなどと干渉しないチャンネルを常に監視し続け るかどうかを設定します。 有効に設定した場合は、本製品は気象・航空レーダーなどと干渉しないチャ ンネルを常に監視し続けます。気象・航空レーダーを検知した場合は、瞬時に 干渉しないチャンネルへ自動的に切り替えを行います。 メモ: 無効に設定した状態で気象・航空レーダーを検知した場合、1分ほど Wi-Fi通信が停止します。
Guard Interval	フレーム送信時の符号化フォーマットを選択します。 「Long GI」は、符号化する情報が干渉しないよう、ある程度余裕をもって(時間をおいて)符号を配置します。 「Short GI」は、この間隔を短縮することによって、より多くの情報を送信できます。
Aggregation	複数の転送フレームを連結して1つのフレームとして送信することにより、 転送速度の向上を図ります。 「AMPDU/AMSDU」、「AMPDU」、「使用しない」から選択します。
フレームバースト	フレームバーストモードを設定します。 「フレームバースト」、「使用しない」から選択します。 フレームバーストは、フレームを連続して送信することにより、通信速度を 向上させる技術です。 複数のWi-Fi機器がフレームバーストモードで動作している場合、パフォー マンスが向上しないことがあります。
<b>802.11gプロテクション</b> ※2.4GHzのみ	802.11gプロテクションを使用する/しないを設定します。 802.11gプロテクションを使用すると802.11g規格と802.11b規格のWi-Fi機 器が混在している環境でも、802.11g規格の機器の通信を優先させることが できます。
802.11nプロテクション	802.11nプロテクションを使用する/しないを設定します。 802.11nプロテクションを使用すると従来規格の機器が混在している環境で も、コリジョンなどによって性能が低下しないようにできます。
DTIM Period	本製品がWi-Fi機器へパワーマネジメントに関する情報を送信する間隔を 設定します。この数値が大きいほどWi-Fi機器が情報取得を行う機会が減る ため、Wi-Fi機器の省電力効果が増す一方、応答が遅くなります。 Wi-Fi機器(パソコン)でパワーマネージメントの設定を有効にしなければ、 この設定は無視されます。(入力可能範囲:1~255)
RTS Threshold	しきい値を超えるサイズの送信フレームに対して、RTS/CTS手順を行ってか ら送信します。周囲の環境が悪い場合や本製品との距離が離れている場合な どに、フレーム転送における信頼性を向上させることができます。(入力可能 範囲:0~2347)
Multicast Rate	マルチキャストパケットの通信速度を設定します。
端末キープアライブ間隔	接続中のWi-Fi機器に対し、本製品が接続されているかどうか確認する間隔 を指定できます。 通常は既定値(60)のままで問題ありませんが、一部のWi-Fi機器ではこの値 を大きくすることによって通信が安定したり、消費電力を抑えたりできま す。0を設定した場合、本製品による接続確認は行われなくなりますが、不特 定多数のWi-Fi機器が接続する環境では、新たにWi-Fi機器が接続できなくな ることがあります。(入力可能範囲:0または60~3600)
<b>802.11h送信パラメーター</b> ※5GHzのみ	「送信する」をチェックすると、Wi-Fi機器に使用チャンネルや送信出力の情 報を送信できます。

項目	内容
送信出力	本製品がWi-Fi送信を行うときの電波送信出力を設定します。 この値を変更することで、本製品の電波の届く範囲を調整できます。 送信出力と電波の到達距離は、ほぼ比例し、送信出力を半分にした場合、到達 距離もほぼ半分になります。 ただし、実際に到達する距離は気象状況や障害物の有無で変動します。
Beacon 送信間隔	ビーコンを送信する間隔を設定します。 ビーコン送出の間隔を長くすると、Wi-Fi通信のパフォーマンスが向上する ことがありますが、Wi-Fi機器が本製品を検出する性能は低下します。 通常は初期値での使用を推奨します。(入力可能範囲:40~1000 Kus)
<b>ビームフォーミング</b> ※5GHzのみ	「使用する」にチェックすると、本製品にWi-Fi接続している機器の位置を自動的に判別し、電波を最適に届けるよう調整します。

### リピーター機能

本製品とアクセスポイント間をWi-Fiで接続するリピーター機能(WDS)を設定する画面です。 **重要:** 

- リピーター機能を使用する場合は、アクセスポイントのWi-FiチャンネルをAuto同士にするか、同じWi-Fi チャンネルに固定してください。Wi-FiチャンネルをAuto同士にする場合は、チャンネルの範囲も合わせて ください。(例:「Auto(1~11ch) |同士にする、「Auto(W56) |同士にするなど)
- 通信できないアクセスポイントのMACアドレスを登録しないでください。登録したアクセスポイントと通信できない場合、本製品は定期的にアクセスポイントを検索するため、通信パフォーマンスが低下することがあります。

#### Wi-Fi設定 > リピーター機能

リピーター機能(WDS)設定(5GHz)

リビーター機能(WDS) 使用しない 🗸

設定

※本製品のIPアドレスが通信先と重複しないように設定してから、リビーター機能を使用してください。

#### 通信可能なアクセスポイント

MACアドレス 暗号化 VLAN ID 状態 通信可能なアクセスポイントが登録されていません

通信可能なアクセスポイントの編集

項目	内容
リピーター機能(WDS)	リピーター機能を使用するかどうかを設定します。 リピーター機能を使用するには、接続相手のアクセスポイントもリピーター 機能の設定を行う必要があります。
通信可能なアクセスポイ ント	<ul> <li>通信可能なアクセスポイントが表示されます。</li> <li>MACアドレス         <ul> <li>通信可能なアクセスポイントのMACアドレスです。</li> <li>暗号化                 通信可能なアクセスポイントの暗号化設定です。</li> </ul> <ul> <li>VLAN ID                 通信可能なアクセスポイントのVLAN IDです。</li> <li>状態                 通信可能なアクセスポイントの状態を表示します。</li> </ul> <ul> <li>通信可能なアクセスポイントの状態を表示します。</li> </ul> </li> </ul>

#### Wi-Fi設定 > リピーター機能 > 通信可能なアクセスポイントの編集

リピーター機能(WDS)設定 - 通信可能なアクセスポイントの編集 (5GHz)

編集を終了して前の画面へ戻る

#### 通信可能なアクセスポイントの新規追加

アクセスポイントのWi-Fi側MACアドレス	
VLAN モード	Tagged Port V
暗号化	暗号化なし ✓ 「暗号化なし」に設定すると、第三者から通信内容を読み取られる可能性があります。
PSK	

本機のWi-Fi側MACアドレス[XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX]

#### 新規追加

#### 通信可能なアクセスポイント

MACアドレス 暗号化 VLAN ID 状態 操作 通信可能なアクセスポイントが登録されていません

項目	内容
アクセスポイントのWi-Fi 側MACアドレス	リピーター機能で通信するアクセスポイントのWi-Fi側のMACアドレスを 設定します。
VLANモード	この設定に関連づけるVLANのネットワークIDを設定します。 <b>Tagged Port</b> タグ付きLANポートとして定義します。Tag VLAN対応のスイッチなどと組 み合わせることで、異なるIDが混在したVLANネットワークの中継ができま す。
暗号化	この設定に用いる暗号化プロトコルを指定します。 <b>暗号化なし</b> リピーター接続の通信を暗号化しません。暗号化を行わない状態では、 本製品がこのリピーター通信経由で中継するWi-Fi通信の内容が、第三者に 傍受される可能性があります。暗号化なしでのご使用はお避けください。 <b>AES</b> リピーター接続の通信にAESを使用して暗号化します。AESを使用するため には、接続先と接続元のアクセスポイント双方にPSK(事前共有キー)を設定 する必要があります。
PSK	暗号化に「AES」を選択した際のPSK(事前共有キー)を設定します。 文字入力の場合は半角英数字8~63文字で、16進数の場合は16進数64桁で 設定してください。

メモ:本製品をWAPM-1166D・WAPS-300WDPとリピーター接続する場合は、WAPM-1166D・ WAPS-300WDPの「Reverse Direction Grant」を「無効」に、「VLANモード」を「Tagged」に設定してください。

### SSID設定

Wi-FiのSSIDや暗号化を手動設定します。

メモ:設定できるWi-Fiには、2.4GHz、5GHzの2種類があり、それぞれ設定を行うことができます。

#### Wi-Fi設定 > SSID設定

SSID設定 - SSIDの編集		
ステアリング ポリシー設定 ステアリング ポリシー 無効 →		
SSID編集		
Index 状態 SSID VLAN ID 2.4GHz 5GHz ステアリング Wi-Fiの認証 暗号化 1 有効 buffalo1 〇 〇 無効 WPA2 Personal AES 編集 削除		
新規追加		

項目	内容
	ここで設定したSSIDに接続するWi-Fi機器を、バンドステアリング機能に よって各バンドに自動的に割り当てる際のポリシーを設定します。
	<b>無効</b> バンドステアリングを無効にします。
	<b>台数平均</b> 各バンドに接続するWi-Fi機器の台数が公平となるように、自動的に割り振 るポリシーです。
	<ul> <li>メモ:</li> <li>• 2.4GHzよりも最大通信レートの大きい5GHzの方が接続台数が多くなる よう割り振ります。</li> </ul>
	• Wi-Fi機器側の仕様により、接続先が切り替わらないことがあります。
ステアリングポリシー	<b>混雑回避</b> あるバンドでWi-Fiの混雑を検出した際に、混雑していないバンドへWi-Fi機 器の接続先を切り替えるポリシーです(Wi-Fiが混雑していない場合は、台数 平均と同じ動作です)。 メモ:ステアリングポリシーの基本的な推奨値は「混雑回避」となりますが、
	環境によっては「台数平均」や「無効」が適していることもあります。 ・「台数平均」が適している事例:
	混雑と混雑していない状態が頻繁に切り替わり、Wi-Fi機器の接続先が安 定しない環境。 学校などで「混雑回避」を使用した場合、多くのWi-Fi機器で同時に動画再 生するとWi-Fiが混雑し、接続の切り替えが発生するために、Wi-Fiが途切 れることがあります。このようなときは、「台数平均」に設定して改善する ことがあります。
	<ul> <li>「無効」が適している事例:</li> <li>Wi-Fi機器によっては接続するバンドに優先順位が設定されており、接続 先が切り替わらず、頻繁にWi-Fiが途切れることがあります。このようなと きは、「無効」に設定して改善することがあります(「無効」に設定した場合、 各バンドに異なるSSIDを設定し、Wi-Fi機器の接続先を手動で割り振ると いった解決方法などがあります)。</li> </ul>

項目	内容
	本製品のSSID設定に関する情報が表示されます。 [編集]をクリックすると、SSID設定の編集画面が表示されます。 編集中のSSIDについては、「修正中」と表示されます。
	Index SSIDのインデックスです。
	<b>状態</b> SSIDの現在の状態を表示します。
	<b>SSID</b> 設定されているSSIDを表示します。
	<b>VLAN ID</b> SSIDのVLAN IDを表示します。
SSID編集	<b>2.4GHz</b> 設定されているSSIDが2.4GHzに対応したものである場合に「○」を表示しま す。
	<b>5GHz</b> 設定されているSSIDが5GHzに対応したものである場合に「○」を表示しま す。
	<b>ステアリング</b> バンドステアリングの現在の状態を表示します。
	<b>認証</b> SSIDに設定されている認証方式を表示します。
	<b>暗号化</b> SSIDに設定されている暗号化方式を表示します。

### Wi-Fi設定 > SSID設定 > 編集

SSID設定 - SSIDの編集		
ステアリング ボリシー設定       ステアリング ボリシー 無効		
SSID編集		
Index 状態 SSID VLAN ID 2.4GHz 5GHz ステアリング Wi-Fiの認 1 有効 buffalo1 〇 〇 無効 WPA2 Person	証 暗号化 al AES 修正中	
使用可能SSID	2.4GHz 5GHz 15 /16 15 /16	
Wi-Fi	● 有効 ○ 無効	
SSID	buffalo	
次の場合に有効にする		
使用デバイス	☑ 2.4GHz ☑ 5GHz	
ステアリング	無効 🗸	
優先制御	優先 ✔	
VLAN ID	VLANモード VLAN ID 追加VLAN ID Untagged Port ✔ 1	
ANY接続	許可する	
プライバシーセバレーター	使用しない	
ロードバランス(同時接続台数制限)	2.4GHz 5GHz 128 /128 128 /128	
₩:□:/介言刃言正	WDA2 Percent	
中国に行いた		
Management Frame Protection		
2月11日後日田	追川山南の6日で114ノ/みい	
修正保存 編集を終了して前の画面へ戻る		

項目	内容
使用可能SSID	2.4GHzと5GHzに使用可能なSSIDの数が表示されます。 本製品では、2.4GHzと5GHzで、それぞれ最大16個(リピーター機能使用時は 最大15個)のSSIDを設定できます。
Wi-Fi	SSIDの有効/無効を設定します。
SSID	SSIDはWi-Fi上での本製品の識別名です。Wi-Fi機器からの接続時、このSSID の値が本製品を示すことになります。同じSSIDを持つ複数のアクセスポイン トを広範囲に設置することによって、ローミング環境を構築できます。SSID を変更するときは、新しいSSIDを入力欄に上書き入力してください(半角英 数字および半角記号で、1~32文字まで設定可能です。大文字と小文字は区別 されます)。

項目	内容
	指定したSSIDを有効にする動作モードを選択します。
	<b>通常時と緊急時</b>
次の場合に有効にする	SSIDは吊に有効です。 通常時のみ SSIDは本制日が通常時モードのときのみ方効になります
	<b>繁急時のみ</b> SSIDは本製品が緊急時モードのときのみ有効になります。
	SSIDをどのバンドで使用するかを設定します。
使用デバイス	<b>2.4GHz</b> SSIDを2.4GHz用として使用する場合にチェックマークを付けます。
	<b>5GHz</b> SSIDを5GHz用として使用する場合にチェックマークを付けます。
ステアリング	バンドステアリング機能の有効/無効を設定します。 有効にした場合は、「ステアリングポリシー」で設定したポリシーに従って動 作します。
優先制御	ここで設定したSSIDに接続している機器の通信優先度を、ほかよりも下げた い場合は「通常」に設定します。
VLAN ID	各SSIDにVLANモード、VLAN ID、追加VLAN IDを設定します。 追加VLAN IDは、VLANモードが「Multiple」の場合のみ入力できます。 VLAN IDおよび追加VLAN IDは、1~4094までの整数値を設定できます。
ANY接続	選択したSSIDを検索して見つけられるようにするかどうかを設定します。 「許可する」にチェックマークを付けると、本製品に接続するとき、Wi-Fi機器 側で本製品を検索するだけで見つけることができます(Wi-Fi機器側もANY 接続を許可する設定にする必要があります)。 「許可する」のチェックマークを外すと、本製品に接続するとき、Wi-Fi機器側 で本製品を検索しても見つけることができません。本製品に接続するには、 SSIDを入力する必要があります。
	同じSSIDに接続しているWi-Fi機器同士の通信を制限します。
	<b>STAセパレーター</b> 本製品に接続されているWi-Fi機器同士の通信を禁止します。
プライバシーセパレー ター	<b>SSIDセパレーター</b> 同じSSIDに接続しているWi-Fi機器以外との通信を禁止します。
	<b>使用しない</b> Wi-Fi機器同士の通信を制限しません。
	メモ:プライバシーセパレーター機能は、有線LAN端子経由の通信を禁止するものではありません。そのため、Wi-Fi機器のプロキシなどを経由した通信は、制限できません。

項目	内容
ロードバランス(同時接続 台数制限)	本製品に同時接続可能なWi-Fi機器の最大数を設定できます。 複数台のアクセスポイントを同時に運用している場合、この機能を利用して 負荷分散(ロードバランシング)を実現できます。1台〜最大接続台数(128台) の範囲内で設定できます。
	重要: 最大接続台数は理論値であり、実用的な通信帯域を保証するものでは ありません。

項目	内容
	Wi-Fi機器の接続に使用する認証方式を設定します。
	<b>認証を行わない</b> Wi-Fi機器が接続したときに、本製品は認証を要求しません。
	<b>Enhanced Open</b> Enhanced Openに対応したWi-Fi機器が通信できます。通信はAESで暗号化 されます。
	<b>暗号なし(Open)/Enhanced Open</b> すべてのWi-Fi機器が通信できます。Enhanced Openに対応したWi-Fi機器の 通信はAESで暗号化されます。
	IEEE802.1x/EAP IEEE802.1x/EAPに準拠したWi-Fi機器の認証を行います。この機能と RADIUSサーバーを併用することで、アカウントを発行したユーザーのみ Wi-Fiを利用できるようにします。 「IEEE802.1x/EAP」に設定すると、最大通信レートが54Mbpsに制限されま す。
	WPA2 Personal WPA2に準拠したWi-Fi機器の認証を行います。本製品に設定した事前共有 キー(Pre Shared Key)と同じ事前共有キーに設定されたWi-Fi機器のみが通 信できます。
Wi-Fiの認証	WPA3 Personal WPA3 Personalに準拠したWi-Fi機器の認証を行います。本製品に設定した 事前共有キーと同じ事前共有キーに設定されたWi-Fi機器のみが通信できま す。
	<b>WPA/WPA2 Personal</b> WPA/WPA2 mixed modeに準拠したWi-Fi機器の認証を行います。本製品に 設定した事前共有キー(Pre Shared Key)と同じ事前共有キーに設定された Wi-Fi機器のみが通信できます。
	WPA2/WPA3 Personal WPA2 PersonalまたはWPA3 Personalに準拠したWi-Fi機器の認証を行いま す。本製品に設定した事前共有キーと同じ事前共有キーに設定されたWi-Fi 機器のみが通信できます。
	<b>WPA2 Enterprise</b> WPA2に準拠したWi-Fi機器の認証を行います。EAP認証プロトコルに対応し たWi-Fi機器(サプリカント)およびRADIUSサーバーが必要です。
	<b>WPA3 Enterprise</b> WPA3に準拠したWi-Fi機器の認証を行います。EAP認証プロトコルに対応し たWi-Fi機器(サプリカント)およびRADIUSサーバーが必要です。
	<b>WPA/WPA2 Enterprise</b> WPA/WPA2 mixed modeに準拠したWi-Fi機器の認証を行います。EAP認証 プロトコルに対応したWi-Fi機器(サプリカント)およびRADIUSサーバーが 必要です。

項目	内容
	<b>WPA2/WPA3 Enterprise</b> WPA2またはWPA3に準拠したWi-Fi機器の認証を行います。EAP認証プロト コルに対応したWi-Fi機器(サプリカント)およびRADIUSサーバーが必要で す。
Wi-Fiの認証	
	WPA3 Enterprise 192-bit Security
	WPA3 Enterprise 192-bit Securityに準拠したWi-Fi機器の認証を行います。
	WPA3 Enterprise 192-bit Security準拠のEAP認証プロトコルに対応した
	│Wi-Fi機器(サプリカント)およびRADIUSサーバーが必要です。

#### 認証を行わない > 暗号化なしの場合

項目	内容
暗号化	「暗号化なし」を選択します。
追加認証	「 <u>追加認証設定を行う場合」(P.61)</u> を参照してください。

#### 認証を行わない > WEPの場合

項目	内容
暗号化	「WEP」を選択します。「WEP」に設定すると、最大通信レートが54Mbpsに制限されます。
WEP暗号化キー	WEP暗号化キーの形式を「文字入力・5文字(WEP64)」「文字入力・13文字 (WEP128)」「16進数入力・10桁(WEP64)」「16進数入力・26桁(WEP128)」か ら選択します。
デフォルトキー	使用する暗号化キーを、キー1~キー4のいずれかから選択します。
暗号化キー1~暗号化キー 4	以下の書式で暗号化キーを入力します。 文字入力の場合 半角英数字5文字(キー長:64ビット)または13文字(キー長:128ビット)を入 力します。 16進数0場合 16進数10桁(キー長:64ビット)または26桁(キー長:128ビット)を入力しま す。
追加認証	│ <u>「追加認証設定を行う場合」(P.61)</u> を参照してください。

#### IEEE802.1x/EAPの場合

項目	内容
キー長	暗号化キー長さを、64ビット、128ビットのいずれかから選択します。
追加認証	「追加認証設定を行う場合」(P.61)を参照してください。

#### WPA2 Personal、WPA3 Personal、WPA/WPA2 Personal、WPA2/WPA3 Personalの場合

項目	内容
暗号 <b>化方式</b> (*1)	AES AESは、暗号化に強力なアルゴリズムを利用した暗号通信方式です。 この通信方式を利用する場合は、本製品およびWi-Fi機器の両方でAES/CCM プロトコルをサポートしている必要があります。
	TKIP/AES mixedmode TKIPとAESの認証・通信を同時にできます。ブロードキャスト・マルチキャス ト通信は、TKIPを使用します。
キー更新間隔	事前共有キーの更新間隔を、分単位で設定します。
事前共有キー	<ul> <li>事前共有キーを設定します。</li> <li>文字入力の場合</li> <li>半角英数字8~63文字を入力します。</li> <li>16進数の場合</li> <li>16進数64桁を入力します(WPA2/WPA3 Personalの場合、64桁の入力はできません)。</li> </ul>
Management Frame Protection ( * 2, 3)	<ul> <li>Management Frame Protection (MFP)は、管理フレームのセキュリティーを確保することにより、不正なDeauth/DisassocフレームなどによりWi-Fiの利用を妨害するといった攻撃を防ぐことができます。</li> <li>無効</li> <li>管理フレームのセキュリティー確保を行いません。</li> <li>有効(Optional)</li> <li>MFPに対応したWi-Fiアダプターは管理フレームのセキュリティーを確保しながら接続できます。MFPに対応していないWi-Fiアダプターは、無効のときと同じように接続できます。</li> <li>有効(Required)</li> <li>MFP対応のWi-Fiアダプターは、管理フレームのセキュリティーを確保しながら接続できます。MFPに対応していないWi-Fiアダプターは、接続できません。</li> </ul>
追加認証	<u>「追加認証設定を行う場合」(P.61)</u> を参照してください。

\*1 Wi-Fiの認証で認証方式を選択すると、暗号化方式も自動的に選択されます。

\*2 Wi-Fiの認証に「WPA/WPA2 Personal」を選択した場合は表示されません。

\*3 Wi-Fiの認証で選択した認証方式によって、設定できる内容が異なります。

#### Enhanced Open、暗号なし (Open) / Enhanced Openの場合

項目	内容
<b>暗号化方式</b> (*1)	AES AESは、暗号化に強力なアルゴリズムを利用した暗号通信方式です。 この通信方式を利用する場合は、本製品およびWi-Fi機器の両方でAES/CCM プロトコルをサポートしている必要があります。 Open/AES Enhanced Openに対応したWi-Fi機器の通信はAES(上記参照)で暗号化され ます。 そのほかのWi-Fi機器の通信は暗号化されません。
キー更新間隔	事前共有キーの更新間隔を、分単位で設定します。

項目	内容
追加認証	「追加認証設定を行う場合」(P.61)を参照してください。

\*1 Wi-Fiの認証で認証方式を選択すると、暗号化方式も自動的に選択されます。

# WPA2 Enterprise、WPA3 Enterprise、WPA/WPA2 Enterprise、WPA3 Enterprise、WPA3 Enterprise 192-bit Securityの場合

項目	内容
暗号化方式 (*1)	AES AESは、暗号化に強力なアルゴリズムを利用した暗号通信方式です。 この通信方式を利用する場合は、本製品およびWi-Fi機器の両方でAES/CCM プロトコルをサポートしている必要があります。
	<b>TKIP/AES mixedmode</b> TKIPとAESの認証・通信を同時にできます。ブロードキャスト・マルチキャス ト通信は、TKIPを使用します。
キー更新間隔	暗号化キーの更新間隔を、分単位で設定します。
	Management Frame Protection(MFP)は、管理フレームのセキュリティー を確保することで、不正なDeauth/DisassocフレームなどによりWi-Fiの利 用を妨害するといった攻撃を防ぐことができます。 <b>無効</b>
	管理フレームのセキュリティー確保を行いません。
Management Frame Protection ( * 2, 3)	<b>有効(Optional)</b> MFPに対応したWi-Fiアダプターは管理フレームのセキュリティーを確保し ながら接続できます。MFPに対応していないWi-Fiアダプターは、無効のとき と同じように接続できます。
	<b>有効(Required)</b> MFP対応のWi-Fiアダプターは、管理フレームのセキュリティーを確保しな がら接続できます。MFPに対応していないWi-Fiアダプターは、接続できませ ん。
追加認証	<u>「追加認証設定を行う場合」(P.61)</u> を参照してください。

\*1 Wi-Fiの認証で認証方式を選択すると、暗号化方式も自動的に選択されます。

\*2 Wi-Fiの認証に「WPA/WPA2 Enterprise」を選択した場合は表示されません。

\*3 Wi-Fiの認証で選択した認証方式によって、設定できる内容が異なります。

#### 追加認証設定を行う場合

項目	内容
	Wi-Fi機器の接続の際に使用する追加認証方式を設定します。
	追加認証を行わない Wi-Fi機器が接続したときに、本製品は追加認証を要求しません。
	MACアドレスリストによる制限 あらかじめ登録したMACアドレスを持つWi-Fi機器のみが接続できるように 制限します。
追加認証	MACアドレスリスト+MAC-RADIUS認証(*1) MACアドレスリストによる制限とMAC-RADIUS認証を併用します。 ※MAC-RADIUS認証でMACアドレス認証をするには、対応するRADIUSサー バーが必要です。
	MAC-RADIUS認証(*1) Wi-Fi機器が接続したときに、その機器のMACアドレスを利用した認証を行います。
	※MAC-RADIUS認証でMACアトレス認証をするには、対応するRADIUSサー   バーが必要です。
	追加認証で使用するパスワードを設定します。
	   MACアドレスを使う
認証パスワード	追加認証のパスワードにMACアドレスを使用します。
(*2)	次のパスワードを使う
	追加認証で使用するパスワードを、1~128文字までの半角英数字記号で設定 します。
	Wi-Fi機器の認証などに使うRADIUSサーバーの設定について、すべての SSIDで共通の設定を使用するか、SSIDごとに個別の設定を使用するかを 選択します。
<b>RADIUS</b> ( * 2)	<b>ネットワーク設定内のRADIUSサーバー設定を使用する</b> すべてのSSIDで共通のRADIUSサーバー設定を使用します。RADIUSサー バー設定は、ネットワーク設定 > RADIUS > RADIUS設定の画面で 行います。
	<b>本画面で個別にRADIUSサーバーの設定をする</b> SSIDごとに個別のRADIUSサーバー設定を使用します。RADIUSサーバー 設定は、本画面で行います。
<b>サーバー名</b> (*3)	認証時の問い合わせを行うRADIUSサーバーを、DNS解決可能なサーバー名、 またはIPアドレスで設定します。
認証ポート	RADIUS認証プロトコルに使用されるRADIUSサーバー側のUDPポート番号 を設定します。
(*3)	<b>メモ:</b> 一般的なRADIUSシステムの場合は1812番ポートを使用します。
Accounting (*3)	外部RADIUSサーバー使用時に、RADIUSサーバー上で認証済クライアント の通信パケット情報などを集計する、RADIUS Accountingプロトコルを使用 するかどうかを設定します。RADIUS Accountingプロトコルに対応していな いRADIUSサーバーをお使いの場合は、チェックマークを外してください。

項目	内容
Accountingポート (*3)	外部RADIUSサーバー使用時にRADIUS Accountingプロトコルに使用され るサーバー側のUDPポート番号を設定します。 ※一般的なRADIUSシステムの場合は1813番ポートが使用されます。
Shared Secret (*3)	RADIUSサーバーと本製品の間の通信に使うShared Secretを設定します。 RADIUSサーバーは同じShared Secretを持つ本製品からの認証のみ受け付 けます(入力可能文字:1~255文字までの半角英数字記号)。
Session Timeout	RADIUSサーバーが許可するWi-Fi機器の通信可能時間を設定します(入力可 能範囲:0、60~86400(秒))。 0を設定した場合は、通信可能時間は無期限になります。
	メモ:参照先のRADIUSサーバーにもSession-Timeout属性が設定されている場合、本製品はどちらか短く設定された値を優先して利用します。
<b>Calling-Station-Id</b> (*3)	<ul> <li>RADIUSサーバーに送信するCalling-Station-Idの書式を選択します。</li> <li><b>""(区切りなし,小文字)</b></li> <li>接続したWi-Fi機器のMACアドレスがハイフン区切りなしの小文字(例: 1234567890ab)で送信されます。</li> <li><b>"-"(ハイフン区切り,大文字)</b></li> <li>接続したWi-Fi機器のMACアドレスがハイフン区切りありの大文字(例: 12-34-56-78-90-AB)で送信されます。</li> </ul>
<b>Called-Station-Id</b> (*3)	<ul> <li>RADIUSサーバーに送信するCalled-Station-Idの書式を選択します。</li> <li>""(区切りなし、小文字)</li> <li>接続したWi-Fi機器のフレームを受信した本製品のMACアドレスがハイフン</li> <li>区切りなしの小文字(例:1234567890ab)で送信されます。</li> <li>"-"(ハイフン区切り、大文字):"SSID"</li> <li>接続したWi-Fi機器のフレームを受信した本製品のMACアドレスがハイフンン区切りありの大文字、接続したWi-Fi機器が接続先に利用するSSID(例: 12-34-56-78-90-AB:Buffalo)で送信されます。</li> </ul>

\*1 Wi-Fiの認証で「認証を行わない」、「Enhanced Open」、「暗号なし(Open)/Enhanced Open」、「IEEE802.1x/EAP」、「WPA2 Personal」、「WPA3 Personal」、「WPA/WPA2 Personal」、「WPA2/WPA3 Personal」を設定した場合に表示されます。

\*2 追加認証が「MACアドレスリスト+MAC-RADIUS認証」、「MAC-RADIUS認証」時のみ表示されます。

\*3 RADIUSが「本画面で個別にRADIUSサーバーの設定をする」時のみ表示されます。

### MACアクセス制限

本製品への接続を許可したいWi-Fi機器のMACアドレスを登録します。 本製品では、接続を許可するWi-Fi機器のMACアドレスリストを本製品に登録する方法で、MACアクセス制限 を行います。

#### Wi-Fi設定 > MACアクセス制限

MACアクセス制限設定
<ul> <li>登録リスト</li> <li>No. MACアドレス 接続状態</li> <li>MACアドレスが登録されていません</li> <li>登録リストの編集</li> </ul>
エクスポート

項目	内容
登録リストの編集	本製品への接続を許可したいWi-Fi機器のMACアドレスを編集します。
エクスポート	クリックすると、MACアドレスを一行にひとつ記入したテキストファイル (txt形式)がエクスポートされます。

- メモ:
- MACアドレスの入力フォーマットは、区切りなしか、コロン区切り、ハイフン区切りです。 例:1234567890AB

12:34:56:78:90:AB

- 12-34-56-78-90-AB
- 登録できる最大MACアドレス件数は、4096件です。

#### Wi-Fi設定 > MACアクセス制限 > 登録リストの編集

MACアクセス制限設定 - 登録リストの編集
編集を終了して前の画面へ戻る
登録リスト
▲ ▶ // 登録
 検出された₩i-Fi機器一覧(登録リストに登録されていない端末)
MACアドレス Wi-Fi機器は検出されていません。

項目	内容
登録リスト	MACアクセス制限で接続を許可するMACアドレスを入力します。
登録	登録リストに入力したMACアドレスを登録します。
検出されたWi-Fi機器一覧 (登録リストに登録されて いない端末)	本製品に接続しているWi-Fi機器のMACアドレスが表示されます(登録リス トに登録しているWi-Fi機器は表示されません)。

### WMM

本製品が行う通信で、特定の通信にのみ優先順位を付けます。 この設定は、リアルタイム性が要求される通信(VoIPなどの各種ストリーム通信)で、ほかの通信からの影響を 受けにくくできます。

### Wi-Fi設定 > WMM

WMM設定						
WMM-EDCA パ	ラメーター	設定				
優先度	バラメータ	<u> </u>				
		AP用	STA用			
	CWmin:	15	15			
AC_BK(低い)	CWmax:	1023	1023			
	AIFSN:	7	7			
	TXOP Limit:	0	0			
		AP用	STA用			
	CWmin:	15	15			
AC_BE(通常)	CWmax:	63	1023			
	AIFSN:	3	3			
	TXOP Limit:	0	0			
		AP用	STA用			
	CWmin:	7	7			
AC_VI(優先)	CWmax:	15	15			
	AIFSN:	1	2			
	TXOP Limit:	94	94			
		AP用	STA用			
	CWmin:	3	3			
AC_VO(最優先)	CWmax:	7	7			
	AIFSN:	1	2			
	TXOP Limit:	47	47			
設定						

項目	内容			
	AP用(本製品)とSTA用	月(Wi-Fi機器)それぞれの初	期値は以下の	とおりです。
	優先度	パラメーター	AP用	STA用
	AC_BK(低い)	CWmin: CWmax: AIFSN: TXOP Limit:	15 1023 7 0	15 1023 7 0
	AC_BE(通常)	CWmin: CWmax: AIFSN: TXOP Limit:	15 63 3 0	15 1023 3 0
	AC_VI(優先)	CWmin: CWmax: AIFSN: TXOP Limit:	7 15 1 94	7 15 2 94
WMMパラメーター	AC_VO(最優先)	CWmin: CWmax: AIFSN: TXOP Limit:	3 7 1 47	3 7 2 47
	CWmin, CWmax コンテンション・ウィン ン・ウィンドウはIEEE にウィンドウ内の値が くなります。 AIFSN フレーム送信間隔を設	- ンドウの最小値・最大値を設 802.11で行うフレーム衝突 「小さくなるほど、そのキュ・ 党定します。単位はスロット(	、 回避機構で使 ーが送信権を行 (CWmin,CWm	ンテンショ 用され、一般 導る確率が高 naxで定義さ

ノレーム送信间隔を設定します。単位はスロット(CWMIN,CWMAXで定義されるウィンドウ値と同様)です。フレーム送信間隔が小さいほど、バックオフ アルゴリズムの開始時間が早まるため、結果としてキューの優先度が高くなります。

#### **TXOP** Limit

キューが送信権を得た場合に占有できる時間を示します。1単位は32msで す。この時間が多いほど一度得た送信権でよりに多くのフレームを転送でき ますが、反面ほかのキューのリアルタイム性を損なうことになります。

# <u>クライアントモニター</u>

本製品と通信をしているWi-Fi機器の情報を表示します。

### Wi-Fi設定 > クライアントモニター

	-	モニタ	ŀ-∃	ン	ア	1	ラ	ク
--	---	-----	-----	---	---	---	---	---

インターフェース	MACアドレス :	送信受	CANG CO &	SI(dBm)	接続時間	待機時間	1
SSID#1[Buffalo]	XX:XX:XX:XX:XX:XX S	9.2KB 15.	1KB	-49	55s	0s	\$
SSID#3 [XXXXXX]	XX:XX:XX:XX:XX:XX S	9.5KB 12.	8KB	-61	3m10s	17s	\$
無線LANクライアン	ノトモニター(5GH	lz)接続	七数:	3台			
- インダーフェース	MACアドレス	送信	受信	-RSST (dB	m)接続時	澗 待機時	間待
- インダーフェース SSID#2[BuffaloX]	■ MACアドレス XX:XX:XX:XX:XX:XX	送信 11.4KB	_ 受信 14.6KB	R221 (dB	m) 接続時 ·56 1m:	澗 待機時 38s	間 0:
インダーフェース SSID#2 [BuffaloX]	MACアドレス XX:XX:XX:XX:XX:XX XX:XX:XX:XX:XX:XX	达1言 11.4KB 136.2KB	受1言 14.6KB 60.2KB	- K221 (qB	m)接続時 ·56 1m3 ·60 2m1	間 待機時 38s 19s	帮 0s 13s
インターフェース SSID#2 [BuffaloX] SSID#4 [XXXXXXXXXXXXXXX	MACアドレス XX:XX:XX:XX:XX:XX XX:XX:XX:XX:XX:XX XX:XX:	达1言 11.4KB 136.2KB 8.7KB	受1言 14.6KB 60.2KB 11.1KB	- K221 (dB	m)接続時 ·56 1m3 ·60 2m <sup>-</sup> ·55 \$	間 待機時 38s 19s 36s	朝間 0s 13s 0s

インターフェース	MACアドレス	送信	受信	RSSI(dBm)	待機時間
WDS(2.4GHz#1)	XX:XX:XX:XX:XX	38.4KB	2.5KB	-61	2h16m4s

現在の情報を表示

項目	内容
インターフェース	本製品と通信しているWi-Fi機器のSSIDを表示します。
MACアドレス	本製品と通信しているWi-Fi機器のMACアドレスを表示します。
送信	本製品と通信しているWi-Fi機器への送信データ量(Bytes)を表示します。
受信	本製品と通信しているWi-Fi機器からの受信データ量(Bytes)を表示します。
RSSI(dBm)	本製品と通信しているWi-Fi機器の信号強度(dBm)を表示します。
接続時間	本製品と通信しているWi-Fi機器の接続時間を表示します。
待機時間	本製品と通信していたWi-Fi機器が無通信状態になってからの時間を表示します。
[現在の情報を表示]	表示内容を更新します。

### Wi-Fiスケジューラー

各SSIDを無効にするスケジュールを設定します。曜日・時間帯を組み合わせて5分単位で設定できます。

### Wi-Fi設定 > Wi-Fiスケジューラー



項目	内容
Wi-Fiスケジューラー	<ul> <li>Wi-Fiスケジューラーを使用するかどうかを設定します。</li> <li>メモ:</li> <li>「管理設定]-[時刻]画面で時刻を設定している場合のみ動作します。</li> <li>停電や再起動、ファームウェア更新などにより本製品の時刻が初期化されると、Wi-Fiスケジューラー機能が動作しなくなります。時刻を設定する場合は、NTP機能の使用をおすすめします。</li> </ul>
追加登録可能エントリー 数	登録可能なスケジュールのエントリー数を表示します。

内容
SSIDを無効にするスケジュールを登録します。 [ <b>新規追加]</b> スケジュールを登録する画面を表示します。
[ <b>全てのエントリーを削除</b> ] 登録しているスケジュールすべてを削除します。
[ <b>編集</b> ] 該当するスケジュールを編集します。
[ <b>削除</b> ] 該当するスケジュールを削除します。
登録したスケジュールをグラフで確認できます。 グラフに表示される白色のバー( )は現在の時刻を示しています。

### Wi-Fi設定 > Wi-Fiスケジューラー > 新規追加

Wi-Fiスケジューラー			
無効にするSSIDのフ	スケジュール設定		
SSID	使用デバイス 選択 選択		
buffalo	2.4GHz, 5GHz		
- - 曜日	日     月     火     水     木     金     土       □     □     □     □     □     □     □     □		
設定時間	開始時刻 00 ~ : 00 ~ 終了時刻 00 ~ : 00 ~		
追加編集を終了して前の画面へ戻る			

項目	内容
無効にするSSIDのスケ ジュール設定	無効にするSSIDを選択します。
曜日	SSIDを無効にする曜日を設定します。
設定時間	SSIDを無効にする時間帯を設定します。 日をまたぐような(たとえば22:00~06:00のような)設定もできます。

# 管理設定

管理設定は、本製品のHome画面から[詳細設定]-[管理設定]を選択すると、表示できます。

# 本体/パスワード

エアステーション名の設定、設定画面にログインするためのユーザー名/パスワードの設定を行います。

本体/パスワード	設定
管理ユーザー名 admin	
管理バスワード	•••••
参照ユーザー名 user	
参照バスワード	
	(確認用)
設定	
[拡張設定]	
エアステーション名	APXXXXXXXXXXXX
	🗹 HTTP 🗹 HTTPS
管理インターフェース	🗹 TELNET 🗹 SSH
	SNMP
SNMP Version	SNMPv1/v2c ~
SNMP Getコミュニティ	public
SNMP Setコミュニティ	private
SNMP Trap	□ 送信する
SNMP Trapコミュニティ	public
SNMP Trap送信先	
設定	

管理設定 > 本体/パスワード

項目	内容
管理ユーザー名	本製品の設定画面にログインし、設定変更を行うための管理ユーザー名で す。 半角英数字および「-」で4~16文字まで入力できます。ただし、「-」が先頭また は、末尾に含まれる文字列は設定できません。また、空欄は設定できません。
管理パスワード	パスワードを変更できます。 半角英数字および記号で6~32文字まで入力できます。空欄は設定できません。

項目	内容
参照ユーザー名	本製品の設定画面にログインし、設定情報を参照するための参照ユーザー名です。 半角英数字および「-」で4~16文字まで入力できます。ただし、「-」が先頭または、末尾に含まれる文字列は設定できません。また、空欄は設定できません。 このユーザー名でログインした場合は、操作や設定の変更を行うことはできません。
参照パスワード	パスワードを変更できます。 半角英数字および記号で、0~32文字まで(SNMPv1/v2cに設定時)または6~ 32文字まで(SNMPv3に設定時)入力できます。
#### [拡張設定]

以下の項目は、設定内容をよくご理解の上、変更してください。一般的な使い方の場合は、変更する必要のない 項目です。

項目	内容
エアステーション名	本製品の本体名を設定します。 ここで設定した名称は、syslogなどで使用されます。 半角英数字および「-」で1~32文字まで入力できます。ただし、「-」が先頭また は、末尾に含まれる文字列は設定できません。また、空欄は設定できません。
管理インターフェース	本製品の設定画面の各インターフェースについて、有効/無効を設定します。 HTTP ブラウザーからHTTPプロトコルを利用してアクセスできる設定インター フェースです。HTTPを無効にした場合、HTTPプロトコルを利用してアクセ スした際に暗号化HTTP(HTTPS)プロトコルへ誘導するページが表示され ます。 HTTPS ブラウザーから暗号化HTTP(HTTPS)プロトコルを利用してアクセスでき る設定インターフェースです。 TELNET ターミナルソフトからtelnetプロトコルを利用してアクセスできる設定イン ターフェースです。 SSH ターミナルソフトからSSHプロトコルを利用してアクセスできる設定イン ターフェースです。
	<pre>SNMP SNMPプロトコル(Version 1/2c、3)をサポートしたマネージャーソフトから アクセスできる設定インターフェースです。 メモ:「キキNavi」(P.77) を使用する場合は、「SNMP」にチェックマークを 付ける必要があります。</pre>
	SNMPプロトコルのバージョンを選択します。
SNMP Version	SNMPv1/v2c SNMPv1およびSNMPv2cをサポートしたマネージャーに対応します。MIB のアクセスには(Get/Set/Trap)コミュニティーを使用します。 SNMPv3 SNMPv3 USMをサポートしたマネージャーに対応します。(認証方式:SHA/ 暗号化方式:AES) MIBの読み出し(Get)には「管理ユーザー名(admin)/パスワード」または「参 照ユーザー名(user)/パスワード」を使用します。MIBの書き込み(Set)には 「管理ユーザー名(admin)/パスワード」を使用します。MIBの通知(Trap)には 「参照ユーザー名(user)/パスワード」を使用します。 メモ: <ul> <li>「キキNavi」(P.77)を使用する場合は、SNMPv1/v2cを指定する必要があ ります。</li> <li>SNMPv3を指定する場合は、6文字以上の参照パスワードが設定されてい</li> </ul>

項目	内容
SNMP Get コミュニティ	SNMPマネージャーが本製品に対し「GETRequest」を送信する際に指定する コミュニティ名を設定します。(入力可能文字:6~32文字の半角英数記号)
SNMP Set コミュニティ	SNMPマネージャーが本製品に対し「SET Request」を送信する際に指定す るのコミュニティ名を設定します。(入力可能文字:6~32文字の半角英数記 号)
SNMP Trap	本製品のSNMPエージェントでTrapを送信させるかどうかを設定します。
SNMP Trap コミュニティ	本製品がSNMPマネージャーに「Trap通知」を送信する際のコミュニティ名 を設定します。(入力可能文字:6~32文字の半角英数記号)
SNMP Trap送信先	「Trap通知」を行う場合の通知先のホストを設定します。通知先のホストには SNMPマネージャーが動作している必要があります。

## 時刻

本製品の内部時計機能の設定を行います。内部時計の日付・時刻、NTPサーバー、タイムゾーンを設定できます。

メモ:NTPサーバーを正しく設定することによって、再起動/電源ON時に時計を自動的に調整できます。

#### 管理設定 > 時刻

時刻/NTP/タ	イムゾー	-ン 設定	Ē					
日付時刻設定								
日付時刻	2020 年	10 月	1 E	10	時 40	分	9	秒
設定現在の時刻を	記表示 現	在アクセス	(中のパ)	ノコンカ	いら時刻	を取得	]	
NTP機能設定								
NTP機能	🗌 使用す	3						
サーバー名	ntp.jst.mfe	ed.ad.jp				]		
確認時間	24	時間毎						
サーバー機能	🔲 使用す	3						
設定								
タイムゾーン設定								
タイムゾーン	日本(GMT	+09:00) 🗸	]					
設定								

項目	内容
日付時刻	本製品の内部時計の日付時刻を指定します。 年月日は西暦、時刻は24時間制で入力します。設定範囲は2017年から2037年 までです。本製品の電源を入れると、2017/1/1 00:00:00から時刻のカウン トが始まります。

項目	内容
[現在アクセス中のパソコ ンから時刻を取得]	現在アクセス中のパソコンの時刻を入力欄に表示します。
NTP機能	NTP機能を使用する/しないを設定します。
サーバー名	NTPサーバーの名称をDNS解決可能なホスト名、またはIPアドレスで設定します。 半角英数字と「.」、「-」で128文字まで入力できます。ただし、「-」や「.」が先頭または、末尾に含まれる文字列は設定できません。 メモ:ホスト名を設定する場合は、DNSが設定されている必要があります。
確認時間	NTPサーバーに時刻を問い合わせる間隔を時間で指定します。 単位は時間で、1~24時間の範囲で指定します。
サーバー機能	本製品をNTPサーバーとして使用する/しないを設定します。 本製品をNTPサーバーとして使用すると、NTPクライアントから時刻の同期 が行えます。 メモ:本機能は、ファームウェアバージョン1.23以降で使用できます。
タイムゾーン	本製品の内部時計のタイムゾーン(グリニッジ標準時からの時差)を設定し ます。

# ログ情報転送(syslog)

syslogプロトコルによる転送機能の設定を行います。

## 管理設定 > ログ情報転送(syslog)

ログ情報転送(syslog)設定			
ログ情報転送機能	☑ 使用する syslogサーバー	192.168.18.200	
転送するログ情報	<ul> <li>☑ DHCP クライアント</li> <li>☑ Wi-Fi</li> <li>☑ 設定変更</li> <li>☑ NTP クライアント</li> <li>☑ ADT</li> <li>[転送するログ情報]で何も選択して Admin ToolsやキキNaviをお使いの [転送するログ情報]でチェックのあ</li> </ul>	<ul> <li>✓ DH</li> <li>✓ 記</li> <li>✓ シ</li> <li>✓ 有</li> <li>○/場合、 ログ情報転送検能] で「</li> <li>○/場る、 [ログ情報転送機能] で「</li> <li>○</li> <li>○</li> <li>○</li> <li>○</li> <li>○</li> </ul>	HCPサーバー ?証 ? ステム起動 「線リンク ません。 使用する」を選択していない場合でも
設定全選択全	解除		

項目	内容
ログ情報転送機能	ログ情報転送機能を使用するかどうかを選択します。 使用する場合は、syslogサーバーの名称をDNS解決可能なホスト名、または IPアドレスで設定します。使用できる文字は、半角英数字とハイフン「-」およ びピリオド「.」です。ただし、ハイフン「-」やピリオド「.」が先頭または、末尾に 含まれる文字列は設定できません。 メモ:ホスト名を設定する場合は、DNSが設定されており、起動時より名前解 決ができる必要があります。
転送するログ情報	転送するログ情報の種類を設定します。 メモ: ・ [転送するログ情報]で何も選択していない場合、ログ情報は転送されません。 ・ Admin ToolsやキキNaviをお使いの場合、[ログ情報転送機能]で「使用する」を選択していない場合でも[転送するログ情報]でチェックのある項目が転送されます。

## Admin Tools

Admin Toolsによる管理に関する状態を表示します。 メモ: 「キキNavi」(P.77)が設定されているときは、Admin Tools設定できません。

## 管理設定 > Admin Tools

Admin Tools 設定			
<mark>グループモード設定</mark> Admin Tools 登録	未登録	Admir	n Tools 登録の解除
ホリシークルーク リモート管理機能設定		_	
ホスト名 ポート番号 PIN			
ステータス リモート管理機能が設	」 定されてい。	ません。	. ,
キキNavi使用中はAdmin Tool 設定 設定 設定	sは使用う	でぎ まも	<b>±ん。</b>

項目	内容
Admin Tools登録	「登録済み」と表示されている場合はAdmin Toolsによる遠隔管理モードが有 効な状態であることを示し、遠隔管理されている一部のパラメーターなど、 このインターフェースから設定可能な内容が一部制限されます。 Admin Toolsによる遠隔管理を行っていない場合は「未登録」と表示されま す。
	[ <b>Admin Tools登録の解除]</b> このボタンをクリックすると、Admin Toolsの遠隔管理モードを解除できま す。
ポリシーグループ	本製品がAdmin Toolsによって遠隔管理されている場合、管理されている 設定パラメーターの種別を表示します。
ホスト名	WLS-ADTを使ったリモート管理で使用するホスト名を設定します。
ポート番号	WLS-ADTを使ったリモート管理で使用するポート番号を設定します。
PIN	WLS-ADTを使ったリモート管理で使用するPINを設定します。
ステータス	WLS-ADTを使ったリモート管理の状態を表示します。

## ++Navi

キキNavi(インターネットを経由して遠隔地に設置した機器と管理者をつなぐ、当社のリモート管理サービス)への登録設定を行います。

- メモ:
- キキNaviのサービス概要、利用申請、使い方、動作環境などについての詳細は、当社ホームページ(<u>https://</u> <u>www.buffalo.jp/biz/service/detail/kikinavi.html</u>)を参照してください。
- 「設定保存/復元」(P.80)で本製品の設定を復元した場合、キキNaviの設定は初期化されます。当社ホームページ(<u>https://www.buffalo.jp/biz/service/detail/kikinavi.html</u>)に掲載の取扱説明書(「キキNaviユーザーマニュアル」)を参照して再設定してください。
- キキNaviの設定は、保存・復元できません。
- ・ <u>「Admin Tools」(P.76)</u>が設定されているときは、本製品をキキNaviに登録できません。

#### 管理設定 > キキNavi

キキNavi	
キキNaviは、インターネッ	ト経由で本製品を遠隔管理するサービスです。
キキNaviを使用するには、	NTP機能とSNMPを有効にしてください。
キキNavi使用中は、Admin	Toolsは使用できません。
インターネットへの経路に とき、HTTPS通信対応のプロ	プロキシサーバーが設置されている場合は、プロキシサーバーを設定してください。その コキシサーバーを指定してください。
Admin Toolsでグループモー ください。	-ドを設定している場合、キキNaviへ登録するには、Admin ToolsでNTP機能を有効にして
++Navi	☑ 使用する 本製品のシリアル番号がキキNaviに登録済み(一括登録番号経由含む)の場合。自動的に[使用する]に設定されます。
デバイス登録キー	
簡易操作/デバイス設定	☑ 許可する
プロキシ設定	
プロキシ	<ul> <li>使用する</li> </ul>
サーバー名	
ポート	
ユーザー名	
パスワード	
NTP機能設定	
NTP機能	☑ 使用する
サーバー名	ntp.jst.mfeed.ad.jp
確認時間	24 時間毎
SNMP設定	,
SNMP	<ul> <li>使用する</li> </ul>
SNMP Version	SNMPv1/v2c V
SNMP Getコミュニティ	public
SNMP Setコミュニティ	private
設定	
現在の状態 機能が設定さ	れていません。
現在の状態を表示	

項目	内容
	キキNaviを使用するかどうかを設定します。
+ + Naui	メモ:
TTNAVI	<ul> <li>キャNaviを使用する場合は、本製品がインターネット接続できる状態で </li> <li>設置されている必要があります</li> </ul>
	改直されている必安がめりより。 ・ 木制県のシリアル番号がキキNaviに登録済み(一括登録番号経由今む)の
	場合、自動的に[使用する]に設定されます。
	を入力します。
デバイス登録キー	
	メモ:デバイス登録キーは、キキNaviの管理画面から発行します。詳細は、当
	社ホームページ( <u>https://www.buffalo.jp/biz/service/detail/kikinavi.html</u> )
	に掲載の取扱説明書( キキNaviユーザーマニュアル])を参照してください。
	キキNaviクラウドサーバーからの簡易設定や設定プロファイル適用処理を
	受け付けるかどうかを設定します。
	   重要· 許可   かい提合   下記動作とかります
簡易操作/デバイス設定	<b>主女・目うしない物ロ、「記却」」となりより。</b>  ・クラウドの「デバイス設定」―「適用する設定プロファイルの選択」からプ
	ロファイルを流し込めません。
	・ クラウドの「シリアル番号/一括登録番号   から設定したプロファイルや個
	別設定を流し込めません。
	• クラウドの「簡易設定」を操作できません。
	インターネットへの経路にプロキシサーバーが設定されている場合、[使用
	する]を選択してください。
プロキシ	重要:キキNaviはHTTPSプロトコルを使用して通信を行っております。その
	ため、ブロキシ機能を使用する場合は、HTTPS通信のブロキシが可能なブロ
	DNS解決可能なフロキシサーバーのサーバー名、またはIPアドレスを人力し     + +
	より。  坐缶茁粉ウレ「」「」で120立ウキベ】力でキキオーただ」「」や「」が生命キー
サーバー名	十月英数子と「」、「-」(120文子よ(八月(さより。たたし、「-」、「九頃よ     たは 末尾に含まれる文字列は設定できません。
	<b>メモ:</b> ホスト名を設定する場合は、DNSが設定されている必要があります。
ポート	プロキシサーバーのポート番号を入力します。
	プロキシサーバー経由でのアクセスが許可されているユーザー名を入力し
フーザータ	ます。
<u>→</u> - y - <del>1</del> 	半角英数字記号で0~128文字まで入力できます。ただし、コロン「:」は設定で
	きません。
	プロキシサーバー経由でのアクセスが許可されているユーザーのパスワー
パスワード	ドを入力します。
	半角央数子記号でU~128文字まで人力できます。
	NIP機能を使用するかどうかを設定します。
NTP機能	│ ↓★〒・キキNaviを使田する提合け_NTP機能を「使田する」に設定する必要が
	かし、いいいないと、反用する物口は、いい、阪形と「区用する」に設定する必要が   あります。

項目	内容
サーバー名	NTPサーバーの名称をDNS解決可能なホスト名、またはIPアドレスで設定します。 半角英数字と「.」、「-」で128文字まで入力できます。ただし、「-」や「.」が先頭または、末尾に含まれる文字列は設定できません。 メモ:ホスト名を設定する場合は、DNSが設定されている必要があります。
確認時間	NTPサーバーに時刻を問い合わせる間隔を時間で指定します。 単位は時間で、1~24時間の範囲で指定します。
SNMP	SNMPプロトコル(Version 1/2c、3)で本製品へアクセスできるようにするか どうかを設定します。 メモ:キキNaviを使用する場合は、「使用する」にチェックマークを付ける必 要があります。
SNMP Version	<pre>SNMPプロトコルのバージョンを選択します。 SNMPv1/v2c SNMPv1およびSNMPv2cをサポートしたマネージャーに対応します。MIB のアクセスには(Get/Set/Trap)コミュニティーを使用します。 SNMPv3 SNMPv3 USMをサポートしたマネージャーに対応します。(認証方式:SHA/ 暗号化方式:AES) MIBの読み出し(Get)には「管理ユーザー名(admin)/パスワード」または「参 照ユーザー名(user)/パスワード」を使用します。MIBの通知(Trap)には 「管理ユーザー名(user)/パスワード」を使用します。 </pre>
SNMP Get コミュニティ	SNMPマネージャーが本製品に対し「GETRequest」を送信する際に指定する コミュニティ名を設定します(入力可能文字:6~32文字の半角英数記号)。
SNMP Set コミュニティ	SNMPマネージャーが本製品に対し「SET Request」を送信する際に指定す るのコミュニティ名を設定します(入力可能文字:6~32文字の半角英数記 号)。
現在の状態	<ul> <li>デバイス登録キーが有効な場合は、以下の接続状態が表示されます。</li> <li>クラウドサービスと通信しています。</li> <li>デバイスを登録しています。しばらくお待ちください。</li> <li>デバイス登録キーが正しくありません。</li> <li>クラウドサービスと通信できません。</li> <li>不明なエラーです。</li> <li>デバイス登録キーが設定されておらず、シリアル番号/一括登録番号経由で 通信中の場合は以下が表示されます。</li> <li>クラウドサービスと通信しています。</li> <li>上記以外(デバイス登録キーが設定されておらず、シリアル番号/一括登録番号経由でも通信していない場合)は、機能が設定されていません。</li> </ul>
取得したプロファイル	イモNaviシフラトリーハーから取住した設定ノロノアイルのカテコリー名が表示されます。

## 設定保存/復元

本製品の現在の設定をパソコン上のファイルへ保存したり、パソコン上の設定ファイルを本製品に復元したりします。

#### 重要:

- 本製品の故障に備えて、本製品の設定は定期的な保存をおすすめします。
- ・ <u>「キキNavi」(P.77)</u>の設定は、保存・復元できません。

#### 管理設定 > 設定保存/復元

設定保存/復元	
現在の設定の保存	<ul><li>保存</li><li>□ 設定情報ファイルをバスワードで暗号化する</li></ul>
ファイル名	以下を含める □ エアステーション名 □ 製品名 □ F₩バージョン
保存した設定の復元	設定ファイル ファイルの選択 ファイルが選択されていません 復元 □ 設定ファイルの復元にバスワードが必要

項目	内容
現在の設定の保存	[保存]をクリックすると、現在の本製品の設定内容をファイルで保存します。 <b>メモ:</b>
	<ul> <li>保存する設定ファイルにハスワートを設定する場合は、「設定情報ファイルをパスワードで暗号化する」にチェックマークを付けて、パスワードを入力します。</li> <li>「<u>キキNavi」(P.77)</u>の設定は、保存できません。</li> </ul>
ファイル名	設定内容をファイルで保存する際、ファイル名に付加したい情報がある場合 は、該当する項目をチェックします。

項目	内容
項目 保存した設定の復元	<ul> <li>内容</li> <li>[参照]をクリックしてファイルを選択し、[復元]をクリックすると、設定ファイルを読み込み・復元を開始します。</li> <li>メモ:</li> <li>設定を復元すると、IPアドレスやWi-Fiの暗号化キー、管理パスワードなどは、設定ファイル保存時のものになります。 <ul> <li>[キキNavi](P.77)の設定は初期化されます。キキNaviを使用している場合は、当社ホームページ(https://www.buffalo.jp/biz/service/detail/kikinavi.html)に掲載の取扱説明書(「キキNaviユーザーマニュアル」)を参照して再設定してください。</li> <li>パスワードで設定ファイルが暗号化されている場合は、「設定ファイルの</li> </ul> </li> </ul>
	復元にハスワートが必要」にデェックマークを付けて、ハスワートを入力 します。 ・ 復元の失敗・成功に関わらず、時刻の設定が初期化されます。

#### 再起動

再起動スケジューラーの設定をしたり、本製品を再起動したりします。 **メモ:** 再起動により、本製品が保持している時刻が初期値に戻ります。

#### 管理設定 > 再起動

再起動						
再起動	エアステーションを再起動します。 再起動					
再起動スケジューラー 曜日	<ul> <li>□ 使用する</li> <li>□ 日 月</li> <li>□ ✓ ✓</li> </ul>	火	水 ▽	木	金 ▽	±
設定時間						
設定						

項目	内容
再起動	[再起動]をクリックすると、本製品が再起動します。
再起動スケジューラー	<ul> <li>再起動スケジューラーを使用するかどうかを設定します。</li> <li>メモ:</li> <li>「管理設定]-[時刻]画面で時刻を設定している場合のみ動作します。</li> <li>停電や再起動、ファームウェア更新などにより本製品の時刻が初期化されると、再起動スケジューラー機能が動作しなくなります。時刻を設定する場合は、NTP機能の使用をおすすめします。</li> </ul>
曜日	本製品を再起動する曜日を設定します。
設定時間	本製品を再起動する時間を設定します。

## 設定初期化

[設定初期化]をクリックすると、本製品の設定が出荷時設定に戻ります。

#### 管理設定 > 設定初期化

#### 設定初期化

エアステーションに設定されている全ての項目を初期化し、その後再起動を行います。

設定初期化

## ファームウェア更新

本製品のファームウェアを更新します。ファームウェアを更新することによって、不具合の改善・最新の機能のサポートなどが行われます。

#### 管理設定 > ファームウェア更新

ファームウェア更新

ファームウェア ファイル名 ファイルが選択されていません

更新実行

※ファームウェアファイルは下のリンクから取得できます。

<u>ダウンロードサービス</u>

## LED設定

本製品のDIAG/POWERランプを消灯するかどうかを設定します。DIAG/POWERランプを消灯することに よって、節電します。

#### 管理設定 > LED設定

LED設定		
POWER LED  ON	OOFF	
設定		

項目	内容
POWER LED	「OFF」に設定すると、DIAG/POWERランプを消灯します。

## 機器診断

機器診断は、本製品のHome画面から[詳細設定] - [機器診断]を選択すると、表示できます。

## システム情報

本製品の主な設定一覧を表示します。

#### 機器診断 > システム情報

システム情報		
製品名 エアステーション名 シリアル番号	WAPM-1266WDPRA Ver.X.XX(Rx.xx/Bxxxx-X.X) APXXXXXXXX XXXXXXXXX	0
	IPアドレス取得方法 DHCPt	ーバーからIPアドレスを自動取得
LAN	接続状態     通信中       操作     解放       IPアドレス     192.11       サブネットマスク     255.2       デフォルトゲートウェイ     192.11       DNS1 (プライマリー)     192.11       ホスト名     APXX       ドメイン名     MTU値       DHCPサーバーアドレス     192.11       リース取得時刻     2022/       リース期限     2022/       管理VLAN ID     1       MACアドレス     XX:XX       有線LANボート     ステータス     状痕       ボート1     有効     Up -	
₩i-Fi 2.4GHz	ステータス 有効 MACアドレス XX:XX Wi-Fiチャンネル Ch 2 送信出力 100% MAC アドレス 状態 VLAN WDS	<b>(:XX:XX:XX:XX</b> / 20MHz (自動設定) モード VLAN ID セキュリティー は使用されていません
Wi-Fi 5GHz	ステータス 有効 MACアドレス XX:XX Wi-Fiチャンネル Ch 12 送信出力 100% MAC アドレス 状態 VLAN WDS	<b>(:XX:XX:XX:XX</b> 3 / 80MHz(自動設定) モード VLAN ID セキュリティー は使用されていません
SSID	SSID 使用デバイス 認証方式 buffalo 2.4GHz,5GHz WPA2 Personal	暗号化     VLAN Mode / ID     追加     ブライバシー セパレーター       AES     Untagged / 1     -, -, -     追加認証を行わない     使用しない
Link Integrity	未使用	
現在の状態を表示		

項目	内容
製品名	製品名を表示します。

項目	内容
エアステーション名	エアステーション名を表示します。
LAN	LANの情報を表示します。
Wi-Fi 2.4GHz	2.4GHzの現在のWi-Fi設定を表示します。
Wi-Fi 5GHz	5GHzの現在のWi-Fi設定を表示します。
SSID	利用可能なSSIDの状態を表示します。
Link Integrity	Link Integrityの状態を表示します。

## ログ情報

本製品に記録されているログ情報を表示します。ログ情報はある程度記録されると、古い情報から削除されます。

#### 機器診断 > ログ情報



項目	内容
表示するログ情報	ログ情報として表示する内容を選択します。 <b>メモ:</b> WLS-ADTとキキNaviに関するログ情報はどちらも「ADT」に分類され ます。
[ファイル(logfile.log)に 保存する]	現在接続中のパソコンへ、ログ情報を「logfile.log」という名前のテキスト ファイルとして保存します。
[消去]	ログを消去します。

## 通信パケット情報

本製品の通信の統計情報や、各ポートの状態を表示します。

#### 機器診断 > 通信パケット情報

通信パケット情報						
インターフェース		通信速度	正常	エラー	正常	エラー
有線ボート(#1)		Up -1000BaseT-FD	2894	0	3622	0
2.4GHz	SSID#1[Guest]	192Mbps	0	0	0	0
	SSID#2[Work]	192Mbps	0	0	0	0
ECU-	SSID#1[Guest]	866Mbps	0	0	0	0
SSID#2[Work]		866Mbps	0	0	0	0
現在の	現在の状態を表示					

項目	内容
インターフェース	インターフェース名を表示します。有線インターフェースの( )内はポート 番号を示します。
通信速度	各ポートの物理転送レートを示します。有線インターフェースの場合は、現 在リンクしている通信方式も表示します。
送信パケット数	送信を行ったパケット数を表示します。
受信パケット数	受信したパケット数を表示します。

#### 無線環境モニター

本製品が設置されている周囲のWi-Fiの使用状況を表示します。 メモ:Wi-Fi機能が無効となっている場合は、無線環境モニターは動作しません。

#### 機器診断 > 無線環境モニター

無線環境モニター

#### 検索すると、接続している機器の通信が切断されることがあります

#### 検索

#### 6 台のアクセスポイントが存在します 前回の検索からの経過時間 0 分

#### 2.4GHz無線環境モニター

番号	MACアドレス	SSID	Ch	規格	RSSI	Noise	セキュリティー
1	XX:XX:XX:XX:XX:XX	Buffalo-G-X000X	11	802.11g/n	-34	-95	AES
2	XX:XX:XX:XX:XX	X000000X	8	802.11g/n	-55	-95	AES
3	XX:XX:XX:XX:XX:XX	X000000000000000	9	802.11g/n	-56	-95	AES

#### 5GHz無線環境モニター

番号	MACアドレス	SSID	Ch	規格	RSSI	Noise	セキュリティー
1	XX:XX:XX:XX:XX:XX	XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX	100(80MHz)	802.11a/n/ac	-58	-95	AES
2	XX:XX:XX:XX:XX:XX	Buffalo-A-XXXX	108(80MHz)	802.11a/n/ac	-67	-95	AES
3	XX:XX:XX:XX:XX:XX	X000000000000000	120(80MHz)	802.11a/n/ac	-71	-95	TKIP/AES

項目	内容
2.4GHz無線環境モニター 5GHz無線環境モニター	検出したWi-Fi機器の情報を表示します。
	<b>MACアドレス</b> 検出したWi-Fi機器のMACアドレスを表示します。
	<b>SSID</b> 検出したWi-Fi機器のSSIDを表示します。
	<b>Ch</b> 検出したWi-Fi機器のSSIDのチャンネルを表示します。
	<b>規格</b> 検出したWi-Fi機器が対応するWi-Fi規格を表示します。
	<b>RSSI</b> 検出したWi-Fi機器から受信した電波の強度(dBm)を表示します。
	<b>Noise</b> 検出したWi-Fi機器から受信した電波のノイズ(dBm)を表示します。
	<b>セキュリティー</b> 検出したWi-Fi機器のセキュリティータイプを表示します。

## CPUモニター

本製品の動作状態をモニターし、システム負荷率をヒストグラムと数値で表示します。

#### 機器診断 > CPUモニター

CPUモニター			
CPU Load Average			
時間[秒前] CPU Load Average	値		
0	0%		
10 📕	1%		
20	0%		
30	0%		
40	0%		
50	0%		
60	0%		
70	0%		
80	0%		
90	0%		
100	0%		
110	0%		
120	0%		
130	0%		
140	0%		

項目	内容
CPU Load Average	システム負荷率をヒストグラムと数値で表示します。

## I'm Here

本製品正面のDIAG/POWERランプを点滅させて、設置場所を特定します。

### 機器診断 > I'm Here

I'm Here	
LED点滅時間	60 (1-300秒)
実行 停止	

項目	内容
LED点滅時間	<ul> <li>I'm Hereを実行した際、本製品正面のDIAG/POWERランプを点滅させる時間</li> <li>(1~300秒)を設定します。</li> <li>[実行]をクリックすると、本製品正面のDIAG/POWERランプが点滅します。</li> <li>メモ:本製品を再起動すると、LED点滅時間は初期値(60秒)に戻ります。</li> </ul>

## pingテスト

本製品からネットワーク上のほかの機器との接続確認を行うことができます。 本製品の管理VLANポートから指定された機器へPing(ICMP Echo Request)を送信し、結果を表示します。

#### 機器診断 > pingテスト

pingテスト
宛先アドレス 実行
<mark>実行結果</mark> 宛先 未入力 実行結果 未実行

項目	内容
宛先アドレス	pingを送信するネットワーク機器のIPアドレスまたはDNS解決可能なホス ト名を入力してください。[実行]をクリックすると、pingテストを実行しま す。
実行結果	pingテストの実行結果です。送信への応答があれば成功です。

第3章 困ったときは

# 困ったときの対処方法

現象	対処方法			
DIAG/POWERランプが点灯し ない	<ul> <li>LED設定を「OFF」に設定していないかを確認してください。</li> <li>PoE給電機器が本製品のLAN端子に接続されていることを確認してください。</li> <li>PoE給電機器の容量を超えていないか、PoE給電機器の規格が本製品に対応しているかを確認してください。</li> </ul>			
ブラウザーで設定画面が表示 できない	<ul> <li>有効なIPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイが 本製品に設定されているかを確認してください。</li> <li>管理アクセス用VLANのメンバーLAN端子に接続しているかを確認 してください。</li> <li>本製品の設定で、「HTTP」インターフェースが無効になっていないか 確認してください。</li> <li>MACアクセス制限で設定用パソコンからのアクセスが制限されてい ないか確認してください。</li> <li>ほかの人が設定画面に接続していないか確認してください。</li> <li>パスワードを忘れた場合は、本製品を初期化してください。</li> </ul>			
RESETボタンを約3秒間長押し しても初期化できない	RESETボタンを押しながら本製品に電源を供給しているケーブルを接続(電源がONになります)し、約1分間RESETボタンを押したままにしてください。RESETボタンを離して5分待ちます。DIAG/POWERランプ(赤)が消灯したら初期化が完了しています。			
DIAG/POWERランプ(赤)が点 灯したまま、しばらく待っても 消えない	本製品に電源を供給しているケーブルを接続(電源がONになります)した後や設定を変更した後、通常2~3分DIAG/POWERランプ(赤)の点灯が続きますが異常ではありません。5分待ってもDIAG/POWERランプ(赤)が消えない場合は、当社修理センター宛てに本製品をお送りください。			
キキNavi利用中にFWを初期 化、または設定を復元した	初期化/設定復元するとキキNaviの登録が解除されるため、もう一度 設定が必要になります。 お客様自身がキキNavi管理者ではない場合: 初期化/設定復元したことを管理者にご連絡ください。 お客様自身がキキNavi管理者の場合: キキNaviクラウドサーバーより登録済みデバイス(本製品)を削除した 後、本製品の設定画面よりデバイス登録キーを設定し直すか、シリアル 番号を使用してデバイスを登録し直してください(登録済みデバイスを 削除する方法やシリアル番号を使用してデバイスを登録する方法は「キ キNaviユーザーマニュアル」を参照してください)。			
上記以外のトラブルシュー ティング	<ul> <li>・ 当社ホームページの「よくあるご質問」を参照してください。 WAPM-1266WDPR: <u>https://www.buffalo.jp/product/detail/faq/wapm-1266wdpr.html</u></li> <li>WAPM-1266WDPRA: <u>https://www.buffalo.jp/product/detail/faq/wapm-1266wdpra.html</u></li> <li>・ 最新のファームウェアをお試しください。</li> </ul>			

付録

# 製品仕様

Wi-Fiインターフェース	
準拠規格	IEEE 802.11ac/IEEE 802.11n/IEEE 802.11a/IEEE 802.11g/IEEE 802.11b ARIB STD-T71(IEEE 802.11ac/IEEE 802.11a) ARIB STD-T66(IEEE 802.11g/IEEE 802.11b) (小電力データ通信システム規格)
伝送方式	多入力多出力直交周波数分割多重変調(MIMO-OFDM)方式 直交周波数分割多重変調(OFDM)方式 直接拡散型スペクトラム拡散(DS-SS)方式 単信(半二重)
	<b>5GHz(IEEE 802.11ac/n/a):</b> W56 100/104/108/112/116/120/124/128/132/136/140ch(5500~ 5700MHz)
周波数範囲(中心周波数)	<b>2.4GHz(IEEE 802.11n/g/b):</b> 1~13ch(2412~2472MHz)
	本製品と同一の周波数帯を使用する機器がある場合、電波干渉により通信速 度が遅くなるなどの障害が発生する可能性があります。
アクセス方式	インフラストラクチャーモード、WDSモード(アクセスポイント6台まで)
セキュリティー	WPA3(Personal, Enterprise, Enterprise 192-bit Security)、WPA2 (Personal, Enterprise)、WPA2/WPA3(Personal, Enterprise)、WPA/WPA2 (Personal, Enterprise)、IEEE802.1x/EAP、WEP、Enhanced Open、プライバ シーセパレーター、ANY接続拒否、MACアクセス制限、設定画面パスワード、 ロードバランス(接続台数制限)、電波出力制限機能
802.11ac データ転送速度 (オートセンス)	IEEE 802.11ac 20MHz BW <long gi="">:         156/130/117/104/78/52/39/26/13Mbps (2 stream)         78/65/58.5/52/39/26/19.5/13/6.5Mbps (1 stream)         IEEE 802.11ac 20MHz BW <short gi="">:         173.3/144.4/130/115.6/86.7/57.8/43.3/28.9/14.4Mbps (2 stream)         86.7/72.2/65/57.8/43.3/28.9/21.7/14.4/7.2Mbps (1 stream)         IEEE 802.11ac 40MHz BW <long gi="">:         360/324/270/243/216/162/108/81/54/27Mbps (2 stream)         180/162/135/121.5/108/81/54/40.5/27/13.5Mbps (1 stream)         IEEE 802.11ac 40MHz BW <short gi="">:         400/360/300/270/240/180/120/90/60/30Mbps (2 stream)         200/180/150/135/120/90/60/45/30/15Mbps (1 stream)         IEEE 802.11ac 80MHz BW <long gi="">:         400/360/300/270/240/180/120/90/60/30Mbps (2 stream)         200/180/150/135/120/90/60/45/30/15Mbps (1 stream)         IEEE 802.11ac 80MHz BW <long gi="">:         780/702/585/526.5/468/351/234/175.5/117/58.5Mbps (2 stream)         390/351/292.5/263.3/234/175.5/117/87.8/58.5/29.3Mbps (1 stream)         IEEE 802.11ac 80MHz BW <short gi="">:         866.7/780/650/585/520/390/260/195/130/65Mbps (2 stream)         433.3/390/325/292.5/260/195/130/97.5/65/32.5Mbps (1 stream)</short></long></long></short></long></short></long>

802.11n/a/g/b データ転 送速度(オートセンス)	IEEE 802.11n 20MHz Channel <800 ns GI>: 130/117/104/78/52/39/26/13Mbps (2 stream) 65/58.5/52/39/26/19.5/13/6.5Mbps (1 stream) IEEE 802.11n 20MHz Channel <400 ns GI>: 144.4/130/115.6/86.7/57.8/43.3/28.9/14.4Mbps (2 stream) 72.2/65/57.8/43.3/28.9/21.7/14.4/7.2Mbps (1 stream) IEEE 802.11n 40MHz Channel <800 ns GI>: 270/243/216/162/108/81/54/27Mbps (2 stream) 135/121.5/108/81/54/40.5/27/13.5Mbps (1 stream) IEEE 802.11n 40MHz Channel <400 ns GI>: 300/270/240/180/120/90/60/30Mbps (2 stream) 150/135/120/90/60/45/30/15Mbps (1 stream) IEEE 802.11a/g: 54/48/36/24/18/12/9/6Mbps IEEE 802.11b: 11/5.5/2/1Mbps
2.4GHz 拡張転送速度 (オートセンス)	IEEE 802.11n 20MHz BW <long gi="">: 173Mbps (2 streams) 78Mbps (1 stream) IEEE 802.11n 20MHz BW <short gi="">: 192Mbps (2 streams) 86.7Mbps (1 stream) IEEE 802.11n 40MHz BW <long gi="">: 360/324Mbps (2 streams) 180/162Mbps (1 stream) IEEE 802.11n 40MHz BW <short gi="">: 400/360Mbps (2 stream) 200/180Mbps (1 stream)</short></long></short></long>
有線LANインターフェース	
準拠規格	IEEE 802.1Q(VLAN tagging)/IEEE 802.1w (Rapid Spanning Tree Protocol)/IEEE 802.3x(Flow Control)/IEEE 802.3ab(1000BASE-T)/IEEE 802.3u(100BASE-TX)/IEEE 802.3(10BASE-T)
データ転送速度	10/100/1000Mbps(自動認識/固定)
データ伝送モード	半二重/全二重(自動認識/固定)
伝送路符号化方式	8B1Q4、PAM5(1000BASE-T)/4B5B/MLT-3(100BASE-TX)/マンチェスター コーディング(10BASE-T)
スイッチング方式	ストア&フォワード方式
端子	PoE受電対応LAN端子×1(LAN1端子)
その他	
電源	DC 42.5~57V
最大消費電力	<pre>WAPM-1266WDPR: -25~55°C:18.3W 0~55°C:13.8W WAPM-1266WDPRA: -30~55°C:18.3W 0~55°C:13.8W</pre>
最大消費電流	600mA(42.5~57V)
外形寸法	220(W)×280(H)×65(D)mm(本体のみ)

付録

質量	WAPM-1266WDPR: 約1306g(本体のみ) WAPM-1266WDPRA: 約1336g(本体のみ)
動作環境	WAPM-1266WDPR: 温度-25~55°C、湿度10~90% ※結露しない場所に設置してください。 WAPM-1266WDPRA: 温度-30~55°C、湿度10~90% ※結露しない場所に設置してください。

# ケーブル仕様

ケーブル	タイプ	最大長	端子
10BASE-T	エンハンスドカテゴ リー5 UTP/STP <sup>*</sup>	100m	RJ-45
100BASE-TX	エンハンスドカテゴ リー5 UTP/STP <sup>※</sup>	100m	RJ-45
1000BASE-T	エンハンスドカテゴ リー5 UTP/STP <sup>*</sup>	100m	RJ-45

※PoE給電に対応したものをご利用ください。

# 付属品仕様寸法

本体



## 壁掛け金具のねじ穴間隔



座金組み込みねじ



タッピングねじ



# 初期設定一覧

機能	設定項目	出荷時設定
IPアドレス	IPアドレスの取得方法	DHCPから取得(自動取得できない場合は、 192.168.11.100/255.255.255.0)
	デフォルトゲートウェイ	DHCPから取得
	DNSサーバー(プライマリー、 セカンダリー)	DHCPから取得
	DHCPサーバー機能	使用しない
	有効	有効
	通信速度	Auto
LANポート	MDI	Auto
	フロー制御	有効
	802.3az	無効
// / ハュュュ	有線ポート(#1)	Hybrid VLAN ID 1
VLAN <sub>B</sub> QLE	管理VLAN ID	1
	サーバー	外部
	サーバー名	なし
	認証ポート	1812
	Accounting	使用する
	Accountingポート	1813
RADIUS設定	Shared Secret	なし
※プライマリー	Session-Timeout	3600秒
RADIUSサーバー	Calling-Station-Id	""(区切りなし,小文字)
RADIUSサーバー	PMKキャッシュ機能	使用しない
は、同じ初期設定で	共有キー	なし
す。	内蔵RADIUSサーバー	使用しない
	EAP内部認証	PEAP(MS-PEAP)
	EAP証明書ファイル	なし
	Shared Secret	なし
	Session-Timeout	3600秒
	Termination-Action	再認証を行う(RADIUS-Request)
ユーザー管理	登録ユーザーリスト	なし

機能	設定項目	出荷時設定		
	Rapid STP	OFF		
	Aging Time	300		
	BPDU Forwarding	有効		
	Bridge Priority	32768		
	Forward Delay	15		
ブリッジ	Max Age	20		
	Transmit Hold Count	6		
	Auto Edge	無効		
	Port Priority	128		
	Path Cost	有線ポートの場合: 20000 Wi-Fiポートの場合: 200000		
⊐*11 \$`i	Edgeポート	無効		
7992	Point to Point	自動		
Link Integrity	Link Integrity	使用しない		
	確認先ホスト	なし		
	確認間隔	60秒		
	再確認回数	5回		
	切断時の動作設定	有線ポート(#1):何もしない		
Proxy ARP設定	Proxy ARP機能	使用しない		

機能	設定項目	出荷時設定
	Wi-Fi機能	使用する
	Wi-Fiモード	2.4GHz:11b/g/n 5GHz:11a/n/ac
	Wi-Fiチャンネル	<ul> <li>2.4GHz: Auto(1~11ch)、モード20MHz、チャンネル変更 検出間隔60分、子機通信中はチャンネル変更をし ない</li> <li>5GHz: Auto(W56)、モード80MHz、チャンネル変更検出 間隔60分、子機通信中はチャンネル変更をしない</li> </ul>
	干涉波自動回避	強い干渉を受けた時のみ回避する
	<b>DFS障害回避</b> ※5GHzのみ	有効
Wi_Fi其 <del>太</del>	Guard Interval	Short GI
※注記のない限り	Aggregation	AMPDU/AMSDU
2.4GHz、5GHzは同	フレームバースト	使用しない
じ初期設定です。	<b>802.11gプロテクション</b> ※2.4GHzのみ	使用する
	802.11nプロテクション	使用する
	DTIM Period	1
	RTS Threshold	2347
	Multicast Rate	Auto
	端末キープアライブ間隔	60
	<b>802.11h送信パラメーター</b> ※5GHzのみ	送信する
	送信出力	100%
	Beacon送信間隔	100 Kus
	<b>ビームフォーミング</b> ※5GHzのみ	使用しない
ニーター 雄光	リピーター機能(WDS)	使用しない
り こ 一 タ 一 1成 肥	通信可能なアクセスポイント	未登録
SSID 設定	ステアリングポリシー	無効
	SSID編集	未設定
MACアクセス制限	登録リスト	未登録

	/ 1	
1	$\mathbf{i}$	「蔌
	-	

機能	設定項目	出荷時設定					
	WMM-EDCAパラメーター 設定(AP用)		CWmin	CWmax	AIFSN	TXOP Limit	
		AC_BK	15	1023	7	0	
		AC_BE	15	63	3	0	
		AC_VI	7	15	1	94	
\ <b>\/\</b> \/\\/\		AC_VO	3	7	1	47	
			CWmin	CWmax	AIFSN	TXOP Limit	
	WMM-EDCAパラメーター	AC_BK	15	1023	7	0	
	設定(STA用)	AC_BE	15	1023	3	0	
		AC_VI	7	15	2	94	
		AC_VO	3	7	2	47	
Wi-Fiスケジュー ラー	Wi-Fiスケジューラー	使用しない					
	管理ユーザー名	admin					
	管理パスワード	passwor	d				
	参照ユーザー名	user					
	参照パスワード	passwor	d				
	エアステーション名	AP+本製品の有線MACアドレス					
本体/パスワード	管理インターフェース	HTTP/HTTPS:有効 TELNET/SSH:有効 SNMP:無効					
	SNMP Version	SNMPv1	SNMPv1/v2c				
	SNMP Getコミュニティ	public					
	SNMP Setコミュニティ	private					
	SNMP Trap	送信しない					
	SNMP Trapコミュニティ	public					
	SNMP Trap送信先	なし					
	NTP機能	使用しない					
	サーバー名	ntp.jst.mfeed.ad.jp					
時刻	確認時間	24時間毎					
	サーバー機能	使用しない					
	タイムゾーン	日本(GMT+09:00)					
	ログ情報転送機能	使用しない					
ログ情報転送 (syslog)	転送するログ情報	DHCPクライアント、DHCPサーバー、Wi-Fi、認 証、設定変更、システム起動、NTPクライアント、 有線リンク、ADT					
	Admin Tools登録	* 未登録					
	ポリシーグループ	なし					
Admin Tools	ホスト名	なし					
	ポート番号	なし					
	PIN	なし					

機能	設定項目	出荷時設定
	キキNavi	使用しない
	デバイス登録キー	なし
	プロキシ	使用しない
	簡易操作/デバイス設定	許可する
	サーバー名	空欄
	ポート	空欄
	ユーザー名	空欄
キキNavi	パスワード	空欄
	NTP機能	使用しない
	サーバー名	ntp.jst.mfeed.ad.jp
	確認時間	24時間毎
	SNMP	使用しない
	SNMP Version	SNMPv1/v2c
	SNMP Getコミュニティ	public
	SNMP Setコミュニティ	private
再起動	再起動スケジューラー	使用しない
LED設定	POWER LED	ON
I'm Here	LED点滅時間	60秒

## 電波に関する注意

付録

- 本製品は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線局の無線設備として、工事設計認証を受けています。したがって、本製品を使用するときに無線局の免許は必要ありません。また、本製品は、日本国内でのみ使用できます。
- 本製品は、工事設計認証を受けていますので、以下の事項を行うと法律で罰せられることがあります。
  - 本製品を分解/改造すること
  - 本製品の裏面に貼ってある証明ラベルをはがすこと
- 本製品は、次の場所で使用しないでください。
   電子レンジ付近の磁場、静電気、電波障害が発生するところ、2.4GHz付近の電波を使用しているものの近く(環境により電波が届かない場合があります。)
- 本製品の使用するWi-Fiチャンネル(2.4GHz帯の1~13チャンネル)は、以下の機器や無線局と同じ周波数 帯を使用します。
  - 産業·科学·医療用機器
  - 工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の無線局
    - (1) 構内無線局(免許を要する無線局)
    - (2) 特定小電力無線局(免許を要しない無線局)
- 本製品を使用する際は、上記の機器や無線局と電波干渉する恐れがあるため、以下の事項に注意してください。
  - 本製品を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。
  - 万一、本製品から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合は、速やかに 本製品の使用周波数を変更して、電波干渉をしないようにしてください。
  - そのほか、本製品から移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など 何かお困りのことが起きたときは、当社サポートセンターへお問い合わせください。

使用周波数	2.4GHz
変調方式	OFDM方式/DS-SS方式
想定干涉距離	40m以下
周波数変更の可否	全帯域を使用し、かつ「構内無線局」「特定小電力無線局」帯域を回避可能

# Wi-Fi(無線LAN)製品ご使用時におけるセキュリティーに関する注意

Wi-Fi(無線LAN)製品では、LANケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコンなどとWi-Fiアクセス ポイント間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由にLAN接続が可能であるという利点 があります。

その反面、電波はある範囲内であれば障害物(壁など)を越えてすべての場所に届くため、セキュリティーに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。

#### 通信内容を盗み見られる

悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、IDやパスワードまたはクレジットカード番号などの個人情報、メールの内容などの通信内容を盗み見られる可能性があります。

#### 不正に侵入される

- ・ 悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、個人情報や機密情報を取り出す(情報漏洩)
- ・ 特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す(なりすまし)
- ・ 傍受した通信内容を書き換えて発信する(改ざん)
- コンピューターウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する(破壊)

などの行為をされてしまう可能性があります。

本来、Wi-Fi(無線LAN)製品は、セキュリティーに関する仕組みを持っていますので、その設定を行って製品を 使用することで、上記問題が発生する可能性は少なくなります。

セキュリティーの設定を行わないで使用した場合の問題を十分理解した上で、お客様自身の判断と責任にお いてセキュリティーに関する設定を行い、製品を使用することをお奨めします。

社団法人 電子情報技術産業協会(JEITA) 「無線LANのセキュリティに関する注意事項」より

## 免責事項

付録

- 本製品は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など人命に関わる設備や機器、及び 高度な信頼性を必要とする設備や機器としての使用またはこれらに組み込んでの使用は意図されており ません。これら、設備や機器、制御システムなどに本製品を使用され、本製品の故障により、人身事故、火災 事故、社会的な損害などが生じても、当社ではいかなる責任も負いかねます。設備や設計、制御システムな どにおいて、冗長設計、火災延焼対策設計、誤動作防止設計など、安全設計に万全を期されるようご注意願 います。
- 本製品は、日本国内での使用を前提に設計・製造されています。日本国外での使用における故障・不具合についての責任は負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 当社は、製品の故障に関して一定の条件下で修理を保証しますが、記憶されたデータが消失・破損した場合については、保証しておりません。
- 本製品に起因する債務不履行または不法行為に基づく損害賠償責任は、当社に故意または重大な過失が あった場合を除き、本製品の購入代金と同額を上限と致します。
- 本製品に契約の不適合があった場合、無償にて当該契約不適合を修補し、または契約不適合のない同一製品または同等品に交換致しますが、当該契約不適合に基づく損害賠償の責に任じません。
- 本書に記載された責任は、日本国内においてのみ有効です。

## 商標·登録商標

AirStation™は、株式会社バッファローの商標です。本書に記載されている他社製品名は、一般に各社の商標または登録商標です。本書では一部を除き、™、®、©などのマークは記載していません。